

LIFESTYLE DESIGN CENTER ANNUAL REPORT 2011

生活工房 アニュアルレポート 2011 April. 2011 - March. 2012





「Stack-ing Design」展にて試作されたスタッキング可能な調味料入れ（デザイン＝delibab）。
写真＝平野太呂

生活工房アニユアルレポート2011

2011年度に実施した事業を
ギュッとまとめました！

**LIFESTYLE
DESIGN CENTER
ANNUAL REPORT 2011**
April.2011 –
March.2012

生活工房の考え方

Our Vision and Mission



生活工房では展覧会やセミナー、ワークショップなど多様な事業を展開しています。そして、その多岐に渡る事業は、上図のような考え方や目的を組み合わせ実施されています。

We produce various programs along with the vision and missions of each category.

生活工房とは？ What's LIFESTYLE DESIGN CENTER

「暮らしのデザインミュージアム」

生活工房では日常の暮らしの中にあるモノだけでなく様々な事柄に着目し、デザイン・文化・環境といった視点からアプローチして多様なプログラムを展開しています。

国内外の暮らし方の知恵や美しい手工芸、叡智を結集した技術とデザインなどを

伝統的な手法から最先端の考え方まで時空を超えて見つめなおしてみると、

日常の創意工夫の中にたくさん

宝物があることに気付かされます。

また、「地球環境」への配慮を切り口に

次の世代へ何をつないでいくのかを考えることも欠かせない視点です。

「観て、触れて、感じて、考える」体験型の

プログラムを通じて、子どもから大人まで

あらゆる世代の皆さんに「感心と感動」と

「発見」をしていただけるような創造的な

プログラムを提案するところ。

それが「生活工房」です。

平成24年3月 生活工房

“Lifestyle Design Center” or “Seikatsu-Kobo” in Japanese sounds maybe more appropriate, is the public facility where you can enjoy various programs like exhibitions, seminars and workshops for all ages. We are mainly focusing on various things and issues in our everyday life, especially through designs of all kinds, significant cultures and environmental issues. Our objective is to make our facility as “Design Museum of our way of life.”

Arts & crafts from all over the world, of course including Japan, show us aesthetic consciousness and diversity of sensitive hand works. Focusing on technology and designs, we appreciate the endeavor to make our life better. And we think it is very important for us to reconsider our environment and create new value of our future life.

“Watch, Touch, Feel and Consider” is what we think is important for our audience to experience. From little children to grown-ups, we would like all of you to come and enjoy our programs and it will be our great pleasure if you feel something different and find out something special through them. Thank you.

展覧会

新たな発見が暮らしを彩る
生活工房ギャラリーやワークショップルームでは、生活という視点に基づき、デザインやクラフト、異文化など多角的なテーマで展示を実施しています。独自性の豊かな展示の数々は、来場者へ新たな発見を与えています。
We are pioneering program of creative world of various designs, arts & crafts and intercultural experience into everyday life which will offer new and different view and value to share.

2011 3月	3月20日(日)―4月5日(火) EVが約束する未来展 ●▲	
4月	4月10日(日)―5月8日(日) ジャケットのピガク 誘惑するジャケットデザイン ●▲	
5月	5月13日(金)―6月11日(土) 7つの海と手しごとく第1の海 カリブ海とクナ族のモラ ●▲	
6月	6月16日(木)―7月12日(火) Stack-ing Design 積み、重ねる、カタチ。 ●▲	
7月	7月10日(日)―8月20日(土) カメラをもって 世田谷散歩 ●	
8月	7月16日(土)―8月14日(日) 日本の歳時記と伝統文化 vol.1 和紙でおりなす日本のこころ 連鶴・折形・和紙人形 ●▲	
9月	8月19日(金)―9月11日(日) たびたび ひとり旅 Boojilが描くカラフルな世界 ●	
10月	9月14日(水)―10月5日(水) JAPONDER8 第8回留学生研究発表会 ●▲	
11月	10月9日(日)―11月6日(日) 写真館の写真展 「家族の肖像」 ●▲	
12月	10月14日(金)―16日(日) 世田谷区芸術アワード「飛翔」 受賞発表展示 玉田多紀 作品/ 活動発表展 「創造するダンボール」 ■	
2012 1月	11月12日(土)―12月18日(日) 7つの海と手しごとく第2の海 北極海とイヌイトの壁かけ ●▲	
2月	12月3日(土)―16日(金) DAYS JAPAN 写真展 地球の上に見える2011 私たちが世界の未来にできること ●▲	
3月	12月23日(金・祝)―1月29日(日) 日本の歳時記と伝統文化 vol.2 感謝をつなぐ祝いの決まりごと 包む・結ぶ・折る ●▲	
4月	12月25日(日)―1月28日(土) 留学生の写真展	
	2月3日(金)―26日(日) 100年あとの世田谷 ●	
	3月2日(金)―18日(日) I'm so sleepy どうにも眠くなる展覧会 ●▲	
	3月24日(土)―4月1日(日) 14歳のワンピース ●	

Exhibition

ワークショップ

身体を使ってモノづくりを楽しむ
参加者が手や体を動かしながら「考え」「作る」ワークショップでは、子どもから大人までが楽しめる多彩なプログラムを実施しています。生活工房だけでなく、専門的な環境が備わる外部施設を利用することもあります。
Our design and creativity workshops for all ages offer fun and inspiring time to experience. In cooperation with exterior venue of specific function strengthen some of the programs.

2011 3月		
4月	5月20日(金)・21(土) 地域と関わる ワークショップ(1) ■	5月29日(日) 中学生電気フォーミュラーカー 教室(1) ●▲
5月	6月19日(日) 中学生電気フォーミュラーカー 教室(2) ●▲	6月23日(木) 地域と関わる ワークショップ(2) ■
6月	7月10日(日)・17日(日)・28日(木) 中学生ハイブリッドカー教室 ■	7月24日(日) 手から知るうつわとやさい ●▲
7月	7月28日(木) 中学生電気フォーミュラーカー 教室(3) ●▲	8月6日(土)・7日(日) 地域と関わる ワークショップ(3) ■
8月	8月13日(土)・14日(日) おてがる・おきががる・ コマ撮りアニメーション ●▲	
9月		
10月	10月29日(土)・30日(日) DJ体験教室 SETAGAYA★MIX2011 ●▲	11月3日(木・祝) 中学生電気フォーミュラーカー 教室/中学生ハイブリッドカー 教室 ■
11月	11月12日(土)・13日(日) 分解ワークショップ 家電製品の仕組みを探ろう! ●▲	
12月	12月3(土)・4日(日)・10日(土)・11日(日) 14歳のワンピース ●▲	
2012 1月		
2月		
3月		
4月		

Workshop

セミナー/イベント

社会を知る、学びを楽しむ
専門家やクリエイターの方を講師にお招きし、私たちの暮らしや文化に関する様々なセミナーやトークイベントを実施しています。展覧会に関連したセミナーも積極的にを行い、生きた言葉に触れる学びの場を用意しています。
Wide-ranging program of seminars and events for adults brings the academic field and creative world of design into our everyday life. Also, we are complementing to promote better understanding of some of the exhibitions is regularly offered.

2011 3月		
4月	5月28日(土) 生命をつつむ未来繊維(1) 衣「身体化するファイバー」 ●▲	6月5日(日) ITエンターテインメントセミナー 特別編「カメラをもって 世田谷散歩」 ●
5月	6月18日(土)・19日(日) Life in Film vol.1 布と生活 ●▲	7月23日(土) 生命をつつむ未来繊維(2) 医療「再生する皮膚と心の布」 ●▲
6月	7月23日(土) 生命をつつむ未来繊維(2) 医療「再生する皮膚と心の布」 ●▲	9月17日(土)・18日(日) Life in Film vol.2 木と生きる ●▲
7月	9月11日(日) デザインで読む 「本」と「電子書籍」 ●	
8月	10月1日(土) 生命をつつむ未来繊維(3) 食「生命をつなぐ繊維」 ●	
9月	11月18日(金)・19日(土)・20日(日) 食の文化史 世界を旅する麺之路 ●▲	
10月	12月3日(土) 環境と生活デザイン 「電気自動車でご飯を炊こう」 電気自動車が開けるエネルギーの未来 ■	
11月	1月28日(土) 生命をつつむ未来繊維(4) 移動「人が移動するためのファイバー」 ●▲	
12月	2月18日(土) 生命をつつむ未来繊維(5) 住「人と空間を包む繊維」 ●▲	2月18日(土)・19日(日) Life in Film vol.3 紙にこめる ●▲
2012 1月	3月11日(日) 朗読講座「豊かなことばの世界」 朗読発表会	3月15日(木) 知の航海特別編 「東日本大震災の記録」 ●▲
2月		
3月		
4月		

Seminar / Event

地域と市民活動

地域とつながる
市民活動支援コーナーの運営をはじめ、地域の活動を支援し、その交流の場を設けています。多様な価値観や共感の輪を広げ、ネットワークを構築し、イベントや交流会を通じて豊かな地域づくりのお手伝いをしています。
Operating activity space and supporting programs for non-profit organizations, we encourage local citizens' networking with various people and exchange ideas for developing sustainable society.

2011 3月		
4月	4月23日(土)・24日(日) 世田谷アートフリマ vol.15 ●	
5月		
6月		
7月		
8月	8月17日(水)―19日(金) おはなしいっぱい ●▲	
9月		
10月	9月24日(土)・25日(日) 世田谷アートフリマ vol.16 ●	
11月	10月10日(月・祝)・22日(土) パスツアーワークショップ	10月15日(土)・16日(日) パオフェスタ 2011 「ハロウィン喫茶パオ」
12月	11月3日(木・祝) 世田谷アートフリマ in 文学館 ■	
2012 1月	12月4日(日) せたがや市民活動交流会	
2月		
3月	2月23日(木) 市民活動のための ファンドレイジング セミナー ●	2月25日(土) 国際交流 in 世田谷 2012 ●
4月		

Local Community



「Stack-ing Design」展の体験するスタッキングコーナーで使用されたアルファベット積み木（デザイン＝delibab）。
写真＝平野太呂

目次

02 生活工房について

Interview インタビュー

- 08 「織維を紡ぎ、心を編む」真田岳彦（衣服造形家）
- 10 「作家としての羽ばたき」玉田多紀（造形作家）
- 12 「分解博士とよばれて」伊藤敬義／本田端（株式会社東芝）
- 30 「眠りの旅に立つ前に……」佐々木光（セン設計所）／竹村真由子（SUNREOR）／竹田由美（生活工房）

Topics 事業関連トピックス

- 14 季節を折るー「日本の伝統文化と歳時記」作品紹介
- 18 ゆかいな集合写真バスツアー・リポート
- 20 基層に流れるものー「Life in Film」作品紹介
- 22 彼女たちの14歳ー「14歳のワンピース」参加者の今をうつつ
- 26 麺の世界へトリビア編
- 28 「世田谷おはなしネットワーク」が選ぶ、3・11以降に読みたい絵本10冊

Column コラム

- 16 自動車社会の課題 館内端（日本EVクラブ）
- 17 普段着の国際交流 林部宣子（SUNUS）
- 24 敦煌文書から見える麺の歴史 勝木言一郎（東京文化財研究所）
- 25 14歳のワンピース 飛田正浩（spoken words project）
- 32 イヌイットの壁かけについて 笹倉いる美（北海道立北方民族博物館）
- モラを説明したのは誰？ 宮崎ツマヤ子（ポラ研究家）

Exhibition

〔展覧会〕事業報告

- 34 電気自動車が約束する未来
- 35 Stack-ing Design 積み、重ねる、カタチ。
- 36 In so sleepy どうにも眠くなる展覧会
- 37 たびたび ひとり旅
- 38 日本の伝統文化と歳時記
- 39 ジャケットのピガク 誘惑するジャケットデザイン
- 40 7つの海と手しごと《第1の海》
- 41 カリブ海とクナ族のモラ
- 42 7つの海と手しごと《第2の海》
- 43 北極海とイヌイットの壁かけ
- 44 DAYS JAPAN写真展 地球の上に生きる2011
- 45 私たちが世界の未来にできること
- 46 玉田多紀 作品／活動発表展
- 47 「創造するダンボール」
- 48 JAPONDER8 第8回留学生研究発表会
- 49 写真館の写真展《家族の肖像》
- 50 100年あとの世田谷

Seminar / Event

〔セミナー／イベント〕事業報告

- 53 デザインで読む「本」と「電子書籍」
- 54 眞田岳彦ディレクション生命をつつむ未来織維
- 55 Life in Film
- 56 食の文化史 世界を旅する麺之路
- 57 朗読講座「豊かなことばの世界」／ITエンターテインメントセミナー特別編
- 58 カメラをもって世田谷散歩
- 59 環境と生活デザイン電気自動車でご飯を炊こう！／知の航海特別編 東日本大震災の記録

Local Community

〔地域と市民活動〕事業報告

- 60 バスツアーワークショップ
- 61 市民活動のためのファンドライジングセミナー／第20回国際交流inせたがや2012
- 62 世田谷アートフリマ
- 63 市民活動支援コーナー／世田谷市民活動支援会議
- 64 おはなしいっぱい／ギャラリーカフェくりつく

Works 生活工房でつづけたもの

- 65 生活工房の美味しいレシピ
- 68 ワークショップ・レビュー
- 72 チラシ・ギャラリー
- 76 生活工房おでかけマップ&データベース
- 78 生活工房施設ガイド
- 80 協力先一覧

繊維を紡ぎ、心を編む

「生命をつつむ未来繊維」インタビュー
さなだ たけひこ
 眞田岳彦（衣服造形家）

先端繊維と生活、そして心

—— これまでも眞田さんとは「セタガヤーンプロジェクト」※を通じて、生活文化を支えてきた棉を栽培、収穫、紡ぐという過程を参加者と共有して作品を提案することで、心の豊かさについて考えました。そして、今年度は先端繊維をテーマに、5つの領域（衣、医療、食、移動、住）のセミナーを実施しました。いずれの事業においても、眞田さんの活動は、常に日々の生活への眼差しを大切にされているように思いました。

眞田岳彦（以下、眞田） 僕は衣服造形家として、衣服や繊維を素材とした作品づくりをしています。流行を生み出すファッションとしての服ではなく、作品を受け取った人が、それぞれにその使い方や関わり方について発想を広げるものをつくれたら、人は自分なりの幸せを手に入れることができるのではないのでしょうか。生活という言葉は「生きる」を「生きる」と書く。生活工房も、今を生き生き

ヒートテックの流行から、多くの人が先端繊維の存在を知りました。最新型の旅客機や震災後の防護服など、先端繊維のプロジェクトを目にする機会が増えたので、タイミング的にも、このセミナーに関心をもってもらえたと感じています。

—— セタガヤーンは地域の方と、今回は企業の研究者と共に事業を作りました。
眞田 日本の企業は二面性があり、製品の販売だけでなく、研究開発の面でも優れています。製品を販売するということは、つまり生活の場に直結している。先端技術も生活者が新たな生活を築くために役立てないと意味がない。そこで今回は企業の先端繊維を知ることで、私たちの生活に何か新しいつながりが生まれるのではないかと考えました。

各回共通して感じたのは、先端技術を研究している人たちが「心」といった科学の理論では説明し難い、見えないものを重要視していること。皮膚再生医療に取り組み黒柳能光先生は、心と医療の関係性に触れ、より美しく再生させるこ

心感を得られる建築が求められている。技術の先端にいる人ほど、心の問題を内省されているのが興味深かったです。

豊かさを問い続ける

—— 企画名に「生命」という言葉が入りましたが、眞田さんが各回で制作された作品でも人の根源的な部分を照らし出すコンセプトが印象的でした。

眞田 未来の繊維はこんなに夢があると伝えるだけではなく、私たちが未来の繊維や服を活用して、どのように豊かに生きるかを生活工房では提案すべきだと思います。自分とは何者かを問い続け、様々なものを入手できる現代社会で、その知識と具体性をどう役立てるのか。未来繊維が生命や生活、そして人生を包む時、あなたは どうしますか？ と問いかけることが大切だと感じました。一般的な先端繊維のセミナーは、未来予想を伝えるだけに留まることが多く、人間不在というか自分との関係が見えづらい。人

にも地域コミュニティの必要性が問われ、そこではデザインがより力を発揮することが求められるのではないのでしょうか。

眞田 そうですね。震災によって多くの人が死について身近に意識するようになりましたが、そのことで毎日を見つめ直し、生きるこの本質について向き合えた気がします。僕たちがデザインを通して、単に楽しさだけではなく、どうしたら日常と非日常の双方を意識しながら、今日の暮らしに活かせるような仕組みをつくれるか考えています。

—— それが心の豊かさにもつながります。
眞田 セタガヤーンで棉を育て、自分の身近にある幸福を発見した。そして、企業の先端技術を見つけたことで、身のまわりに広がる幸福を知った。次年度はこうした先端繊維が、どうしたら自分たちの生活の豊かさや安心につながるか、そういう実用例を示したいと思っています。例えばそれは備蓄できるものでも、毎日使うものでも、心の抛り所になるものにしたいですね。抛り所って楽しい

させるきっかけを見つげる場として、僕の活動と似ていると思います。

繊維（衣服）を着ないで生活している人はいませんし、みんなにとって繊維は共通項ですよね。例えば、ユニクロの

との重要性を話されました。また住宅資材についてお話し頂いた竹中工務店の大野定俊さんは、これまでの芯材は揺れに強い耐震性を求めて開発してきたが、震災後は人の心も揺れない住居、つまり安

間と技術が隔たりなく、人間が身近に使いこなせてこそ技術だと思います。
 —— 大震災を経て、生活の在り方を再考しながら、人とのつながりの大切さを再認識しました。今後は文化的にも公共的

時には感じませんが、困った時や立ち止まった時に、初めてこれがあったよかったですと痛感する。そんな提案を企業や専門的な団体と手を組みながら、生活工房と共に発信できればと考えています。



眞田岳彦（さなだ・たけひこ）

衣服造形家。衣服とテキスタイルによるアート・デザイン活動を行い、国内外で作品を発表する。女子美術大学・大学院教授。東北芸術工科大学客員教授。

写真＝阿部健 取材・文＝生活工房

※セタガヤーンプロジェクト（2007～2009）
 眞田氏の衣服造形家の視点を軸に「世田谷らしさ」「家族の幸福」を考察したプロジェクト。棉の栽培には区民や学童約500人が参加した。

作家としての羽ばたき

「創造するダンボール」インタビュー

たまだ たき
玉田多紀(造形作家)

写真||阿部健 取材・文||生活工房



ダンボールで作る生きもの

——玉田さんは2010年に世田谷区が主催した芸術アワード「飛翔」で「生活デザイン部門」を受賞し、今年度、生活工房で活動発表展を行いました。その特徴は、ダンボールを使った造形作品ですが、この手法はどのように始まりましたか？

玉田多紀(以下、玉田) ダンボールを使い始めたのは2006年くらいです。大学では油絵を専攻し、平面作品を作っていました。ダンボールに触れるうちに立体も作り始めました。それまで立体造形を学んだことがなかったので、最初は作品をバランスよく立たせることすらできませんでした。その難しさや思うようにいかないところが楽しくなり、立体作品にのめり込みました。見た目にも立体は訴えるものがありますね。

——4メートルを超える大作も小さな作品も、その多くが動物をモチーフにしたユニークなものばかりですよ。

玉田 動物園に取材に行ったりはしていますが、制作の前に設計図などは作らず、手を動かしながら造形していきます。ダンボールを潰す作業の中で、偶然、素材の形に生きものらしさを見つけ、そこから閃いて作ることもありますね。本物と同じように作ろうとしても、ダンボール

が言うことを聞いてくれない(笑)。だからリアルなようで、リアルでない生きものが生まれるんです。

——展覧会でお披露目された大きな鳥の作品「インキュベーション」(羽化する)も「火の鳥」のような想像上の生きものを思わせる雰囲気がありました。

玉田 あの作品は、ワークショップを通じて生まれました。卵を高齢者の方と作り、そこから生まれる小さな恐竜を小学生と作って、それが成長し羽ばたきという、地域の人との活動から生まれたストーリーをカタチにした作品です。

——ワークショップを通じて、参加者と創造性を共有することが受賞理由のひとつでした。子どもは普段から接する機会が多いと思いますが、養護施設で高齢者とのワークショップはどうでしたか？

玉田 たまに親子参加でワークショップを行うと、親の方が楽しんでいることがあります。それで普段はあまり参加されない高齢者の方とワークショップをしてみたいという想いがありました。力のいる作業などは難しいと思い、卵を作るために、はがしたダンボールを風船に貼るという作業をしてみました。単純作業過ぎて……(笑)。参加した方は手を動かすのも得意な方が多く、もう少し作り込んでもよかったです。やってみて気づいたことは多かったですね。

——小学生とは、小学校にお邪魔して4年生の図工の授業で行ったグループワークと、そして夏休みに参加してくれた小学生たちとは2日間に渡りワークショップを行いました。小学生はそれぞれ玉田さんと同じ制作工程を体験しました。

玉田 図工の時間にワークショップをする希望もずっと持っていたのですが、芸術アワードのような機会でないと実現が難しいので、とてもよい経験でした。

作家性の確立へ

——今回の展覧会では、過去の作品も含め、ワークショップの参加者作品も一緒に展示を行いました。

玉田 ワークショップの作品発表展だと、単なる作品展になってしまふ恐れがある。それをアートとして見せるにはどうすればよいか、そこで私はどのような作品を作れるのか。今回の活動や展示を通じて自分の成長や変化を見たいという想いが強くありましたね。

——前述の「インキュベーション」だけではなく、今回は生きものの身体の一部だけを精緻に表した新作も発表されました。これまでの作品の延長にありますが、アプローチが異なりますね。

玉田 これまでは「これはダンボールで作っています。すごいでしょ」という気

持ちが少なからずありました。でも制作を続け、その段階を超えた時に、テーマやフォルムにしっかりと足を伸ばしていなかったことに気がきました。爪の形や尻尾の形がそれぞれ異なるように、身体の一部だけをリアルに追求しても、そのものらしさが出てくる。顔などの分かりやすい部分ではないところに、その生きものを感じさせる作品を作ること、初めて「自分の作品」として見れるものになった気がしました。作品のテーマに気持ちを投入するように変わりました。

——そういう意味では今回の展示は玉田さんにとって節目になったようですね。過去の集大成であり、次への第一歩にもなった。まさに飛翔といえるようですよ。

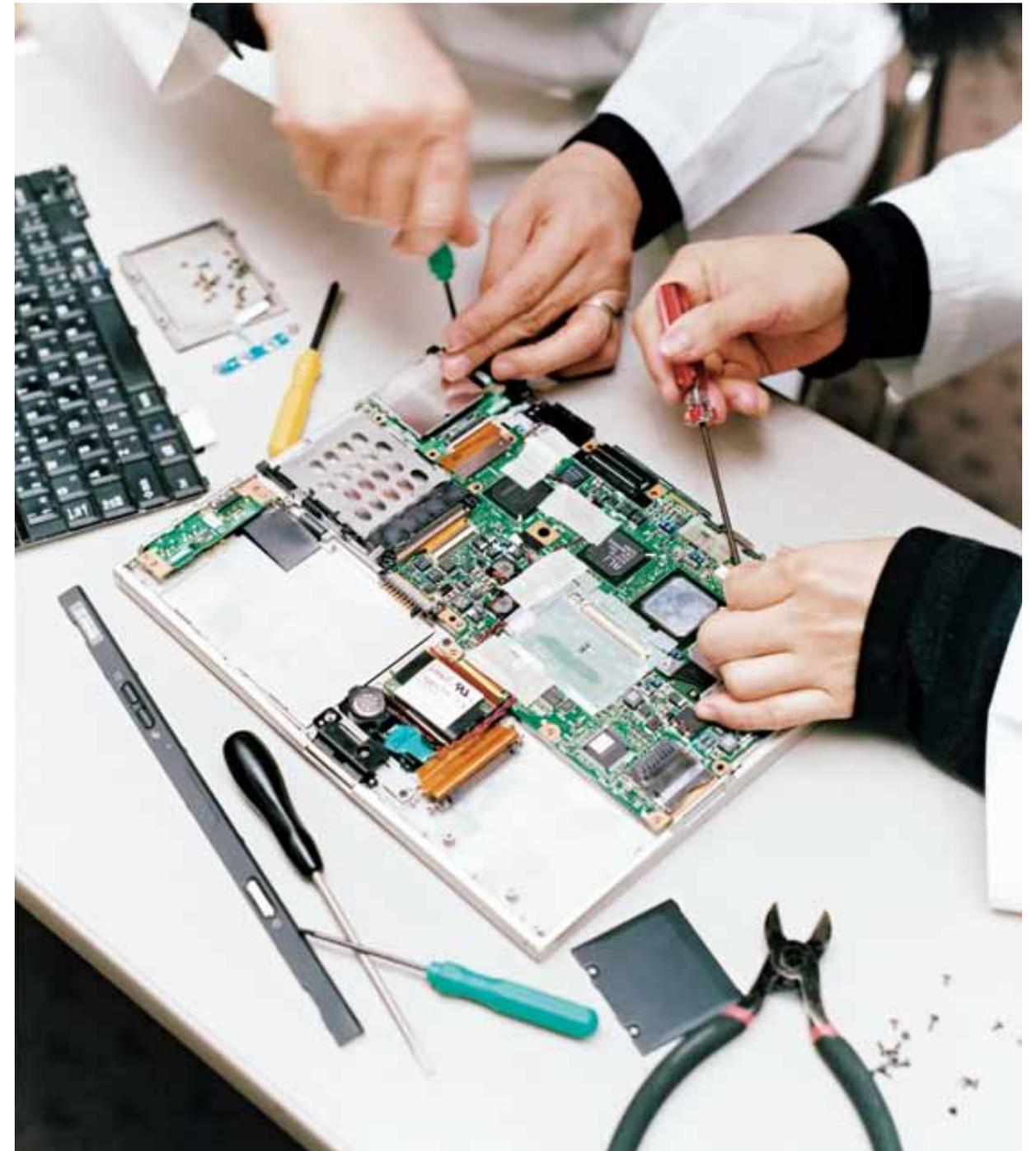
玉田 作家としては展示をしなければならぬけど、自分の強みはワークショップでもある。それを組み合わせたい作家になるために、いろいろと模索していました。今回、一年程の活動期間を通じて、ワークショップと展示のあり方を自分なりに確立できたと思っています。やりたいたいがすべて実現できましたし、今後の活動にもつながる充実した時間だったと思っています。

玉田多紀(たまだ・たき)

造形作家。ダンボールをレリーフ状に貼り合わせる技法で大型の立体造形作品を制作。個展やアートイベントで発表している。2010年に第二回世田谷区芸術アワード「飛翔」生活デザイン部門を受賞。

分解博士とよばれて

「分解ワークショップ」インタビュー

いとうたかよし ほんただだし
株式会社東芝 伊藤敬義 / 本田端写真=平野太呂 取材・文=生活工房
協力=株式会社東芝 CSR推進室

博士の秘かな楽しみ

——小学生を対象にした生活工房の人気企画「分解ワークショップ」(以下、分解WS)は、東芝グループの従業員のみならずボランティアの「分解博士」として協力頂いています。博士には子どもたちに製品の分解の仕方やその仕組みを教えて頂いていますが、お二人は普段どのようなお仕事をされているのですか？

伊藤敬義(以下、伊藤) 私はアンテナの研究開発をしています。携帯電話やパソコン、自動車、人工衛星用など多種多様です。アンテナの研究者には電波が目に見えるんですよ(笑)。アンテナを見ると電波の出方がイメージできるのです。

本田端(以下、本田) 私は半導体部品の開発・設計をしています。基板にたくさん付いているのに、子どもたちには馴染みがないので、分解WSでも一番人気が高いのが半導体です(笑)。でも半導体が優れているのは、小さな体で大きな仕事をすると。電化製品自体が小型になったのも半導体のおかげですよ。

——お二人が分解WSに参加しようと思ったきっかけを教えてください。

伊藤 社内ホームページでボランティアの募集を見て知りました。子どもの頃から工作が好きでしたし、パソコンの分解ができるというので、自分もぜひ分解し

たいと思って。でも後から聞くと、そういう動機の博士ばかりでした(笑)。子どもと接することも楽しみですね。実は自分の子どもが通う小学校でも、PTAの企画として分解WSをしたことがあります。

本田 私もホームページを見て。もともとボランティアに興味があり、技術者で分解好きだったことも一致して、すぐに応募しました。技術者は専門性が強く視野が狭くなりがちなので、いろんな世界を見たいという意味もありました。あまり理解されませんが、他人に説明することが好きなのもかもしれません(笑)。

——専門外の製品を分解することにもなりますが、事前に博士同士で準備をしたりまするのですか？

伊藤 常連の博士たちが定期的に集まって、ワークショップを通じて発見したことを話し合っています。疑問点があれば解決方法を調べ、次回に活かしています。そういう準備はみんな喜んでしていますね。子どもたちには、分解を通じて製品の仕組みを理解して欲しいのですが、口で伝えるだけでは難しいので、色々とアイデアを練って、工夫しています。例えば、製品から部品を冷やすためのファンが出てきた時、扇風機みたいに回ると言葉で伝えるだけではなく、その場で電池につなげてファンを回して見せると「本当だ!」って、より実感してもらえます。そ

ういう小ネタを毎回楽しみながら準備しています。

本田 説明の難しさは毎回気づかされますね。ドライバーの使い方にしても、いくつも説明を考え、毎年ちよつとずつ変えたりしています。そういう所は非常に苦心しますが、分かりやすく説明することを永遠のテーマに、改善し続けています。子どもたちが説明をしつかり理解してくれたという感触を得た時にやりがいを感じています。

伊藤 寸劇で説明したこともあり(笑)。今はエンジニアにも人に伝える能力が強く求められるので、この活動が訓練にもなり、職場でも活かされていると思います。

社会貢献を越えて

——生活工房ではコミュニケーション・ワークショップとして、子どもたちが普段ワークシヨップとしない企業の研究者や開発者と触れ合う機会も大切だと思っています。

本田 私も小学生の頃の課外授業をいまだに覚えています。分解WSも間違いなく参加している子どもたちの将来に良い影響を与えていると思っていて、私たちのような初めて会った大人とのコミュニケーションもとても重要だと思います。

伊藤 子どもの理科離れが言われますが、

本質的には今も昔も変わっていないと、このワークショップを通じて感じました。ドライバーを使えない子がいますが、それは手先が不器用だからではなく、経験がないから。きちんと教えることで使えるようになりますし、その集中力はすごくて、途中で飽きて投げ出す子はほとんどいません。疲れて、フラフラになって帰る子はいませんが(笑)。でも、その子にとって、新しいきっかけになればと思っています。

——博士のみなさんが部署を越えて集い、熱心にお考え頂くことで分解WSが支えられていることを改めて実感しました。

相馬季子(東芝CSR推進室) 様々な部署の従業員が集まり、互いの専門性や知見を活かすことで、活動の幅が広がっています。また東芝では、このような社会貢献活動を通して社内交流の活性化をはかることも大切と考えています。



分解博士の伊藤敬義さん(右)と本田端さん。この日も撮影用にノートPCの分解をして下さいました。

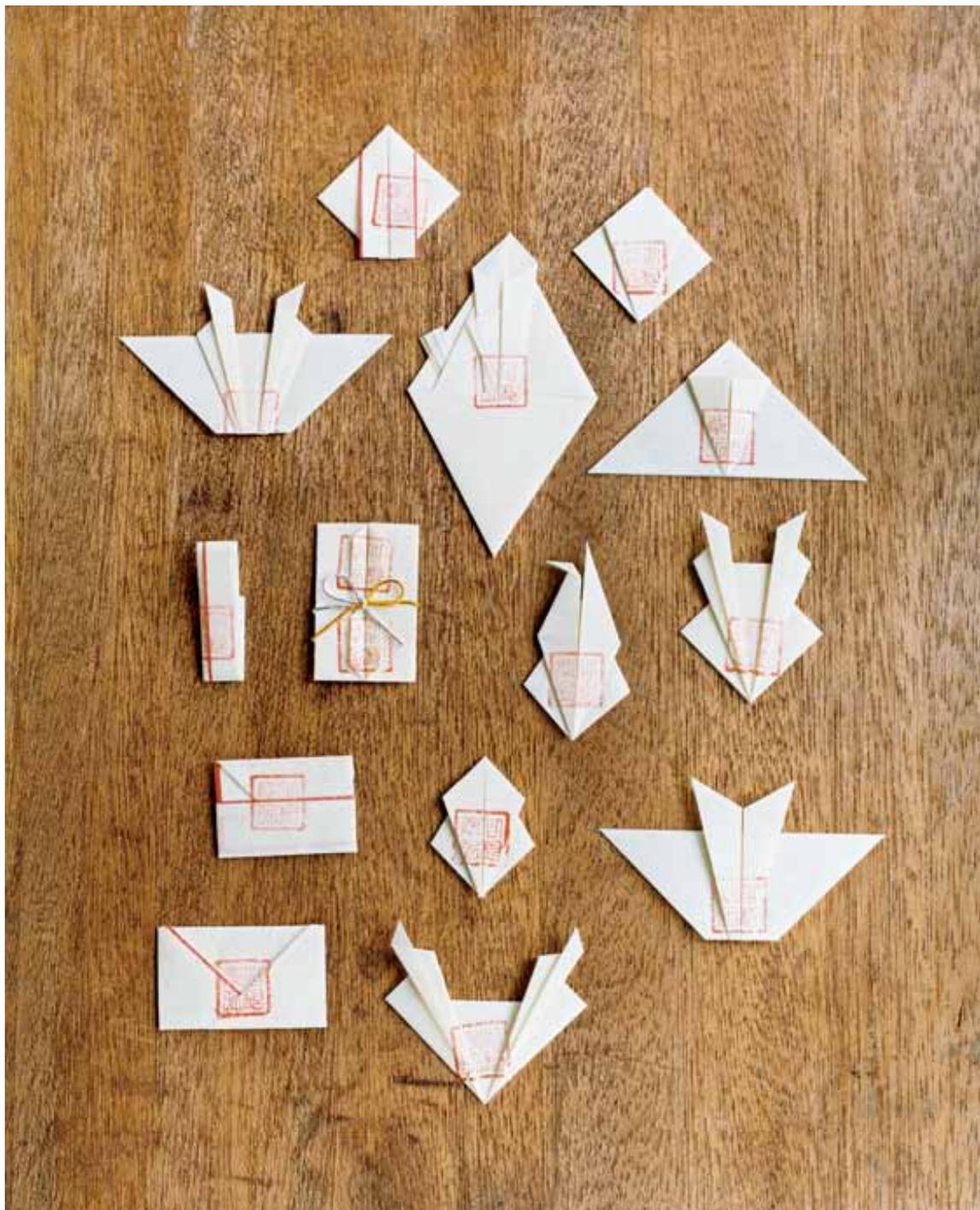
季節を折る

「日本の伝統文化と歳時記」にみるカタチ
写真 平野太呂 協力 お茶の水・おりがみ会館 花村孝子



青海波

連鶴とは折り紙の1種で、1枚の和紙に切り込みを入れてつくられる数羽の連続した折鶴のこと。「青海波」は江戸時代から伝承された連鶴。9羽の鶴を折りこみ、波を表現している。日本の風土と独自の手法で育まれた和紙文化は、現代も生活の様々な場面に使われるだけでなく、文化的な視点からみても、私たちの暮らしに深く根付いている。



折形

贈答や室礼などの際に用いた、紙を折って物を包む、古来より伝承されてきた日本の礼作法のひとつ「折形」。祝いごとや他者への配慮を忘れない日本人の“気配りの心”が表現された文化でもある。写真はその雛型で、実際の4分の1の大きさに折り、これを後世に代々伝え残した。正しい折手順が分かるように、雛型には家元の印が押されている。

普段着の国際交流

談 = 林部宣子 (SUNUS)

数多くの中国の学生さんから「林部さんって本当に日本人ですか？」と聞かれました。あんまりその質問が多いので「どうして？」と聞いたら、信じてたいんですよって。教えられてきた日本人のイメージとあまりにもか



けたいんですよって。教えられてきた日本人のイメージとあまりにもか

林部宣子(はやしべのりこ)
留学生や元留学生、世田谷区、祖師谷国際交流会館と協働し、外国人と共生する住み良い環境作りのために、国際間の理解、親善に寄与することを目的とした団体SUNUS(サナス)の代表。生活工房では留学生の研究発表会「JAPONDER」を主催。本年度で8回目を実施する。
<http://sunus.jp/>

オープン当初の祖師谷国際交流会館は、学生さんが生活を始める準備ができていませんでした。調理器具や食器も何も無くて。家族棟もありますから奥さんやお子さんを伴って留学されている方もいるのに、お子さんのものは二段ベッドだけで布団がないのです。ミルクを沸かすお鍋も無い。言葉も通じなくて買物にも不便しています。これはサポートしなければ、という母親としての気持ちから活動をスタートしました。

ボランティアの国際交流というところ、こちら側がやってあげたいと思うことをしたりイベント的なものが多いのですが、そうではなくて、学生さんたちが欲していることに対して、応えられることがあれば一緒にやりましょう、という既存の団体とは違う活動をした

私には日本語しかできないから、と明言しているんです。そうすると逆に学生さんが協力してくれる。来たばかりの

継続して勉強する人たちは民間のパートに移らないといけないわけですが、交渉するのがとても難しいんです。まだまだ外国人お断りが当たり前なんです。借りるのも大変ですが、学生にどうしてだめなのかを理解させるのも大変で…。日本人として恥ずかしいと同時に、やりきれない気持ちがあります。私たちが関わることによって少しでも早く地域に溶け込んで、心細さから解放され安心して勉強が続けられればと。そういう時に地域の

自動車社会の課題

文 = 館内端 (日本EVクラブ)



その結果、平均的な自家用車オーナーは1年間に4〜5トンのCO₂を排出してしまうのだ。日本の自動車は、日本全体のおよそ17%ものCO₂を排出する。私たち自動車利用者の責任はまぬがれない。

一方、石油生産はピークを迎えていてこれ以上増えない。とてもサウジアラビア2国分もの増産は不可能だ。増える石油需要、減る供給量。

館内端(たてうち・ただし)
1947年群馬県生まれ、日本大学理工学部卒業。東京大学宇宙航空研究所勤務の後、レーシングカーの設計に携わる。94年に日本EVクラブを設立し代表を務める。生活工房では、中学生を対象にした電気自動車やハイブリッドカーの組み立て教室をはじめ環境セミナーの講師を務める。
<http://www.jevc.gr.jp/>

自動車の燃費を改善するには、エンジンが燃やすすガソリンと石油から出る二酸化炭素(CO₂)の排出量を減らすことが必要です。エンジンが燃やすすガソリンと石油から出る二酸化炭素(CO₂)の排出量を減らすことが必要です。

CO₂排出量が少ない自動車の一番の候補が電気自動車だ。ガソリン車にくらべておよそ4分の1の排出量である。エンジンで走る自動車から電気

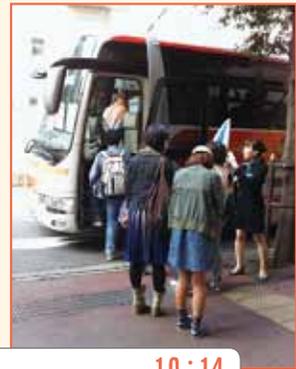
エンジン自動車から石油を使わない自動車へと、自動車の選び方を変えなければならぬ時代を迎えている。

ツイッターで
ふりかえる

ゆかいな 集合写真バスツアー

写真家の池田晶紀さん率いる「ゆかい」のみなさんと
参加者38名が、区内屈指の集合写真ポイント
めぐるバスツアーに出発！ 当日の様子を
タイムラインでダイジェストします。

大型バスで
キャロットタワーを出発です！



バスガイドに扮するは、
生活工房のスタッフ◎

tweet 10:14

「ゆかいな集合写真」バスツアー出発
します！本日、できる限り実況中継を
試みますので、ご参加いただけなかつ
た方もお楽しみください。



ゆかいな写真を撮って、
未来の自分を笑わせよう☆

tweet 10:34

1つ目のシュートポイント「こどもの
ひろば公園」に到着。「ゆかい」の池田
さんから、今日をどんな風に過ごすの
か、おもしろおかしく紹介中です。



撮影=小山通

tweet 10:44

バスの中で、ひとりずつ、それぞ
れのストーリーで撮影中。プロの機
材で、本日の初シュート。

tweet 11:37

「こどものひろば公園」撮影終了。
お昼に向けて移動中です。



撮影=高橋希



移動もたのしく♪
ワンマンショー

tweet 11:44

やっと落ち着き、江山観光の横田
さんのおもしろご挨拶です。さ
すがのプロの“べしやり道”～。

tweet 13:32

お昼は、駒沢大学駅そばの、コ
ロケ西郷亭のお弁当を、世田谷
八幡宮で、いただきます～すつ。



ランチタイムなう。

撮られたら負けよ！
ハッケヨイ！



tweet 13:49

勝運・開運の神様 世田谷八幡宮。

世田谷のイースター島！？
神秘的な石像が迎えてくれる
パワースポット！



撮影=高橋希



tweet 17:09

最後の撮影ポイント、多摩川沿い
の「善養寺」にて、御住職のお話
を伺い、石仏群の前で記念撮影。

撮影=ゆかい



撮影=高橋希

tweet 18:57

本日の世田谷を巡るバスツアーは、多摩川河川
敷で、見知らぬ野球チームの練習を背景にお借
りしながら、38人の参加者による集団パフォー
マンスをもって、みごと大団円を迎えました。
写真の完成をお楽しみに！ゆかいな仲間とも
ども、またのご乗車をお待ちしております～。

ホット
de
一息



tweet 14:43

移動中、恒例のホットドリン
クサービスです。エプロンで
ギャルソンに早がわり。



池田晶紀(ゆかい)
写真家。1978年横浜生まれ。2006年
写真事務所「ゆかい」設立。国内外で個展・
グループ展多数。
<http://yukatstudio.com/>

こどものひろば公園

昭和48年開園。東京100年記念事業として区内
の小学校から募集した、子どもたちの遊び場プラン
をもとに設計。園内は、噴水や少年野球場がある
ケヤキとヒマラヤスギに囲まれた「山の公園」と、
川とその上にかかるスカイウェイやトリデなど
の遊具がたのしい「川の公園」から成る。

世田谷八幡宮

寛治五(1091)年に、後三年の役帰途、源義家が
雨宿りのため、宮の坂に滞在。この度の戦勝は、
日頃氏神としている八幡大神の御加護に依るも
のと思ひ、豊前国の宇佐八幡宮の御分霊をこの地
に勧請しお祭りしたのが始まりという。

善養寺

本尊は大日如来坐像。開山は祐榮阿闍梨(1652
年遷化)。総本山は智積院。深沢村から移され、鎮
守野毛六所神社の神輿をいれる神輿堂や閻魔堂
があったとされている。境内には都の天然記念物
に指定されるカヤの大木がある。

夢のようなひとときでした……

Vol.1 布と生活



『奄美の泥染』1989年／31分

大島紬の名で知られる奄美の泥染。テーチギの煮汁と田の泥により染める技法。奄美独特の締機などの工程。驚くべき緻密さをもつ縞模様仕上げられる。



『茂庭のしなだ織』1991年／31分

ダムに沈む奥茂庭の記録第3作目。シナの木の皮から繊維をとり、糸にして織る。糯米をふかすときの敷布や、桑をとるときに使う袋などに利用されてきた古代布である。

『津軽こぎん—高橋寛子—』
1978年／25分／
制作：伊勢真一

『新島の真田織り』
1997年／32分

『武州藍』
1986年／31分

『茂庭のしなだ織』
1991年／31分

『遥かなる記録者への道—
姫田忠義と映像民俗学』
2007年／75分

Vol.2 木と生きる



『アイヌの丸木舟』1978年／47分

川を軸としたアイヌの伝統生活にとって丸木舟はなくてはならない必需品であった。材料の木の選択から丸木舟作りに至る技術とそれまつわる精神文化を記録。



『埼玉の木地師』1990年／40分

奥秩父の山々には鉢、椀、盆などの木の彫り物や挽き物を作る木地師が活躍していた。こね鉢作りを中心に木地師の技術と信仰を記録。乾燥のための伝統的なイブシ小屋も再現。

『うつわ—食器の文化』
1975年／41分

『奥会津の木地師』
1976年／55分

『草・つる・木の恵み—
飛騨国白川郷』
1998年／57分

『信州木曾あげまつサワラの
木工芸』
2004年／58分

『遥かなる記録者への道—
姫田忠義と映像民俗学』
2007年／75分

Vol.3 紙にこめる



『薩摩の紙漉き』1990年／30分

薩摩の紙漉きは古代に始まり、江戸時代は藩の御用紙として郷土たちによって作られた。カジの木を材料にした伝統的な紙漉きの工程を記録。恵まれた風土と薩摩郷土の気質が丈夫な紙を生む。



『越前和紙』1990年／57分

日本の紙漉きは自然の植物の繊維構造を再構築する微妙な技である。その典型を越前奉書にみた。紙祖神や「火」と「水」への深い信仰心がそれを支える。

『小川和紙』
1992年／40分

『神と紙 その郷のまつり』
1993年／58分

『遥かなる記録者への道—
姫田忠義と映像民俗学』
2007年／75分

基層に流れるもの

姫田忠義さんの言葉に想う

ドキュメンタリー上映会「Life in Film」。その映像には、自らの手で衣食住の暮らしを築いてきた先人たちの姿が映っています。自然を生かし、自然に生かされた生活。フィルムの中に、現代社会が失いつつあるものが記録されていました。

文：天野典子（生活工房） 協力：民族文化映像研究所



忘れかけた時には
よみがえらせないと

記憶の点と点とがつながる。民族文化映像研究所（以下、民映研）の姫田所長とお話していると、いつもの瞬間がおとずれずれます。

民映研は、人間の生活・文化の「自然との深い対応と共生」の在りようを「基層文化」と呼び、日本や世界の農山村・漁村の生活を記録してきました。長年のフィールドワークと、その出会いに培われた姫田さんの対話力が、人の内面を引き出し、話したいという思いを引き出すのかもしれない。

「しゃべりたくなるまで3年でも5年でも通う」という姿勢は、今回上映した17作品の中にも表れています。「奥会津の木地師」は、土地の人々との共同作業によって木地屋敷を建て、木地師の生活と技術を再現記録した作品です。それはその土地に身を置き、肉声で話し合い、信頼関係を築かなければなし得ない大仕事です。

生活に身を寄り添わせること。そうして初めて分かるニュアンスや機微。「人生のひだ、生きるということのひだ、それを可能な限りわかまえる」という姫田さんの姿勢、被写体となる人々への敬意は、どの作品にも通底しています。

今回、上映会の来場者からは「何かを求めて来ている」という静かな熱気が感じられました。特集した布・木・紙の映像には、草木から繊維を取り出し、紡ぐ、織る、漉く、木をはつる（削る）という手仕事

記録されています。そんな暮らしと遠く離れ、消費に傾いた都市に生きる私たち。民映研の作品を世田谷で上映することは、どのような意味を持ったのでしょうか。

「忘れやすい都市生活者に想起させること」——。映像には、現代人が便利さと引き換えに手放してきた知恵と技術が記録されています。先人たちが積み重ねてきた歴史の重層。映像は、その奥深くの基層に、自然に依拠した暮らしと、人の生きる底力があることを教えてくれました。

「忘れかけた時にはよみがえらせないと」——。映像は人の生を動的に記録します。そして、それは観る人に多くのことを伝え、大切な記憶を思い出させる力を思い出したい。それを喚起させる出会いを、私たちは求めているのかもしれない。

映像から発見したことを糧に、どのように自らの暮らしを築いていくか、更なる歴史の層を重ねていくのか。そして、「自分はどこから生きていくか、どの光を求めていくのか」。民映研の映像は、そんな問いを投げかけ続けます。

姫田忠義（ひめだ・ただよし）

1929年兵庫県生まれ。1961年から映像による民族文化の記録作業を開始。1976年民族文化映像研究所設立。所長となる。日本映画大学特任教授（民俗学）。徹底したフィールドワークを基礎とするその活動は、日本記録映画史においてもユニークな立場を築き、海外の研究者からは「映像人類学」と捉えられている。



©民族文化映像研究所「遥かなる記録者への道」より

※特記以外すべての映像制作は民族文化映像研究所

彼女たちの「14歳」

「14歳のワンピース」参加者の今をうつす

ワンピースを身にまとったの撮影会。

これらの写真は

生活工房ギャラリーで展示した。

撮られることの恥ずかしさも緊張感も

彼女たちの全ての表情がまぶしい。

布に記録した14歳の気持ち。

写真に記録された14歳の自分。

みんなが大人になって、それを見た時

どんな気持ちになるのだろう。

どんなことを思うのだろう。

このワークショップは

まだ終わらないのかもしれない。

写真||池田晶紀(ゆかい)
モデル||世田谷区の中学生女子♥



14歳のワンピース

文=飛田正浩 (spoken words project)



言葉になつてはじめて、気持ちは認識出来るのかもしれない。嬉しいやら哀しいやら、たやすく言い切れるような気持ちと気持ちの間のグラデーションの中にも、何かはあります。青と青緑の間にも、名もない色が無限にあるように。

「14歳のワンピース」と題した4日間のワークショップは彼女たちの今の心情にフィットする「気に入った一節」を集める所から始まりました。詩

や小説、また身近な誰かの一言など、何処かから一文を借りてくることによつて、むしろ赤裸裸な部分を垣間見ることが出来たように思います。彼女達のころにある名もない色に共鳴した形跡が、それぞれの自筆のメモに並んでいました。

テニス、水泳、演劇部、怖い話が好きな子。何かを頑張る環境や興味のあることは違つても、その中でたくさん人の感情を経験しているというのが、選んだ言葉の断片に現れリアリティとして生々しく光るのです。口に出すのが恥ずかしいようなくさい台詞でも、そこにあるのはまぎれもなく本音。この、まるで嘘のない「言葉の発表」を丁寧に書いたことが、まず最初の表現になりました。そしてワンピース、ポートレイトと表現は続いて行く。

もし学校で、人とのコミュニケーションの上手さが優劣になるのなら、布の上ではその序列は全く関係ありません。デザインは材料として与えられた折り紙で、持ち寄った言葉とともに浮かぶ風景を黙々と切り取っている姿はそれに気づかせてくれました。しかしアプローチは様々で、中にはデザインにおける次の一手をどうするかを、

に書かれた二点の敦煌文書です。これらの敦煌文書は小麦粉を麵と記し、「勃託」「餠餅」「焼餅」などさまざまな小麦粉食品が登場します。「勃託」はほうとう、「餠餅」はビスケット、「焼餅」はお焼きや練り焼に近い食物で、今日の中国でも羊のしゃぶしゃぶを食べる際に登場します。これらの敦煌文書からは、十世紀前半、中国人が麵類と中華まんの種類を見なしていたことがわかります。また麵は麵類を意味してはいないようですが、餅は焼く小麦粉食品を指すようです。まさにこれらの敦煌文書に記された小麦粉食品は、「斉民要術」から「居家必用事類全集」へと推移する中間に位置することがわかります。どうやら麵と餅の区別は十世紀後半から十二世紀にかけて始まったことがこれらの史料から裏付けられるのです。

敦煌文書から見た麵の歴史

文=勝木言一郎 (東京文化財研究所)



我々が夏に涼を求めて食べる「そうめん」「そして具をたくさん入れて食べる山梨名物「ほうとう」は、意外なことに東アジアの麵食文化史上きわめて古い麵類であることがわかっています。

たとえば六世紀半ばに書かれた農書かつ料理書『斉民要術』には、「白まんじゅう」「かたやき」「ふと」「みずもち」「ほうとう」などの作り方が紹介されています。「白まんじゅう」は現代の中国人が食べる饅頭、「かたやき」は今日のおやきに近い食物です。「ふと」は平安時代の素餅、現代の中国人が食べる油條に近い食物です。また「みずもち」や「ほうとう」はやはり今日のうどんやほうとうに近い食物です。

『斉民要術』からは六世紀半ば中国人が麵類もいわゆる中華まんの類も麵食と見なしていたことがわかります。麵はあくまでも小麦粉や粉食を、また餅は小麦粉をこねたものやその食品を意味していたようです。麵類は

「水引」「餛飩」「餠餅」などとよばれていたのです。それから七〇〇年後、麵の歴史にも変化が現れました。十三世紀後半に書かれた百科全書『居家必用事類全集』には、「みずづくり麵」「掛け延べ麵(そうめん)」「山芋ほうとう」「わんたん」「ながいもつなぎの胡麻餅」「かた焼き」はいわゆるお焼きやねり焼に近い食物です。

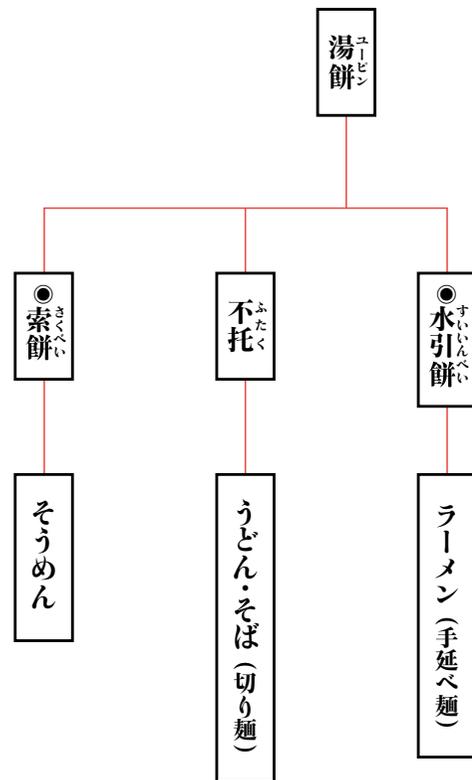
勝木言一郎(かつぎ・げんいちろう) 東京文化財研究所文化遺産国際協力センター国際情報研究室長。東洋美術史を専攻し、日本の仏教美術作品をユーラシア大陸の視野に投影し、その歴史的な意味や評価を位置づけ直す試みを進めている。生活工房では、「世界を旅する麵之路」で講師を務める。 <http://www.tobunken.go.jp>

麺の世界——トリビア編

食から見える世界とのつながりをテーマとした企画「食の文化史 世界を旅する麺之路」から、「へー」な話題をご紹介します。

麺の系譜図

※(めん)の系譜図より
●ワークショップで作った麺



トリビア壹

ご祖先さまは一緒!?

麺の系譜は、大きく分けて、古代ローマに端を発するパスタ類と中国の餅の、2つの潮流があると考えられています。私たちが日本で親しんでいる、そうめん、うどん、そば、ラーメンなどは、中国の餅に起源をもち、海を渡って伝えられたそうです。中国では、4000年前の新石器時代の遺跡から、雑穀を原料とした麺のような形状の遺物が発見されたという事例があります。日本でみられる古い記録は、平安時代の文献『延喜式』(927年完成)から、「索餅」の記載が確認されています。



●水引餅



●索餅

《めん)の系譜図》とは
日清食品の創業30周年にあたり、麺がどこで生まれ、どのようにして世界に伝播されたのかを調査し、まとめられた。加筆・訂正を経て1988年3月完成。

トリビア貳

お中元の定番「そうめん」は、いつから?

資料によると、江戸時代の中期以降には、七夕にそうめんを贈答するのが一般的な習慣になっていたとあります。小麦の収穫後にあたる旧暦七月七日の七夕に、収穫儀礼として初物を食べる習慣に起源をもち、平安時代や鎌倉時代に、中国の故事から、この日にそうめんの祖先とされる索餅を食べると流行病にからないといわれたそうです。また、精進料理として広まったともいわれる麺食文化ですが、庶民の間では、七夕など季節の吉事や慶弔で人が集まる際の膳の一品、つまり、ごちそうとなり、地域の数だけ食べ方があると言っているくらい多くのメニューを生み出しました。

トリビア参

そうめんは どうやって伝来したの?

『麺の文化史』によると、中国と日本で同じ技術が別々に発生したとは考えにくい。索餅の製麺技術が、日宋貿易とともに中国から日本に伝えられ、そうめんという名で室町時代に普及していったのではないかと考察されています。ちなみに、朝鮮半島には、そうめんを作る伝統がなく、現在の中国福建省がそうめんに近い麺の生産地だそうです。

トリビア肆

中国へ逆輸入される 日本の麺!

インスタントラーメンの発明者・安藤百福氏が創業した日清食品ホールディングス株式会社。開業に先立ち、同社常勤顧問でカップヌードルミュージアム館長の筒井之隆氏にお話をうかがいました。

【インタビュー抜粋】

中国へ渡り麺の調査をはじめ以前から、日清食品は日本の郷土料理の調査を行っていました。現在に伝わっている日本の郷土料理には、保存の知恵が豊富に詰まっています。おいしくて体に良いものだけが残っています。日本の郷土料理とインスタントラーメンは、一見遠いように感じるかもしれませんが、保存食であるインスタントラーメンには、それらの技術が利用されています。(中略)中国に端を発しためん食文化は、インスタントラーメンとして、今、中国に里帰りしていることになりました。

トリビア伍

世田谷は麺激戦区!?

ラーメンのランキングで上位にあがる有名店も多い世田谷区ですが、実際はどうなのでしょう? 統計をさがしてみたいところ、残念ながらラーメン店は、中華料理店と一緒に集計されるため単独の数字は不明でしたが、事業所数の数で比較すると、世田谷区は、屋間の人口が多い商業地に引けを取らず区内でも常に上位です。

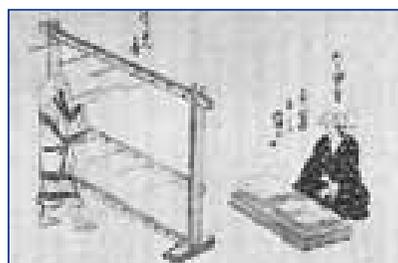
そば・うどん店舗数

- | | |
|-----|------|
| 1位 | 港区 |
| 2位 | 千代田区 |
| 3位 | 中央区 |
| 4位 | 新宿区 |
| 5位 | 大田区 |
| 6位 | 足立区 |
| 7位 | 台東区 |
| 8位 | 世田谷区 |
| 9位 | 葛飾区 |
| 10位 | 板橋区 |

中華料理店舗数

- | | |
|-----|------|
| 1位 | 新宿区 |
| 2位 | 港区 |
| 3位 | 大田区 |
| 4位 | 千代田区 |
| 5位 | 世田谷区 |
| 6位 | 杉並区 |
| 7位 | 足立区 |
| 8位 | 中央区 |
| 9位 | 板橋区 |
| 10位 | 品川区 |

※「平成21年経済センサス基礎調査」より



図＝「麺の文化史」P138より抜粋。東京国立博物館所蔵の「七十一番職人尽歌合」。元絵は室町時代末といわれている。

麺の記念日を祝おう!



毎月11日 麺の日

- 7月2日 さぬきうどんの日
- 10月17日 沖縄そばの日
- 10月26日 きしめんの日
- 11月3日 チャンポン麺の日
- 11月11日 大変縁起が良いめんの日



あなたは何味? 「麺占い」

麺について調べていたら、こんなサイトを発見。「ズバリ!あなたにピッタリの麺を占います!」とのこと。

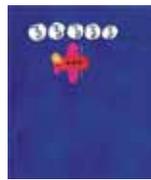
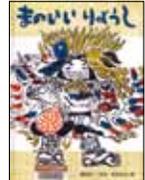
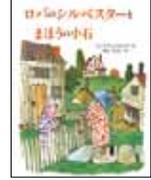
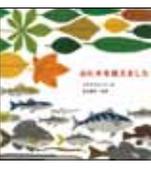
サイトURL
<http://u-maker.com/79120.html>

参考文献＝「麺の文化史」石毛直道/講談社/2006年、「聞き書 ふるさとの料理」農山漁村文化協会/2003年

あの日の2時から

私達は「子どもの本の勉強会」をしていました。
それからは、心が固まり、時は止まり、涙を流し、
そして自分の出来る事は何かと考えました。
ここに10冊の絵本を紹介します。
絆、元気、自然環境などを
感じて、考えて頂ければうれしいです。



 <p>1. ぐるぐる 作：五味太郎 出版社：偕成社（1991年）</p> <p>遠くの方から飛行機がぐるぐるの飛んでくる。昼も夜も飛び続ける。ぐるぐる。時には、雲の中や向こうから来る沢山の飛行機にも出会う。ぐるぐる。ある時、調子が悪くなって、大変！でも大丈夫。元気がでる「る」。頑張ります！</p>	 <p>2. まのいいりようし 再話：瀬田貞二 画：赤羽末吉 出版社：福音館書店（1975年）</p> <p>日本の昔話、狐師が息子のお祝のために、曲った鉄砲を持って出かけた。度重なる幸運は、楽しくて、愉快！解り易くスピード感あふれる話は最後の御馳走のおおばんぶるまでおわる。御馳走様でした！赤羽さんの絵がまたいい。</p>
 <p>3. どうなのブレッツェル 文：M・レイ 絵：H・A・レイ 訳：渡辺茂男 出版社：福音館書店（1978年）</p> <p>好きな人に振り向いてもらえるよう、ひたすら努力するブレッツェルはいじらしくもあり頼もしくもある。窮地に陥った時、はじめて真実の愛に気付くグレタ。結婚し子犬がうまれた2人の自信に満ちた表情に明るい未来が見える。</p>	 <p>4. かあさんのいす 作：ペラ・B・ウィリアムズ 訳：佐野洋子 出版社：あかね書房（1984年）</p> <p>おばあちゃんとかあさんと3人で暮らすわたし。火事で全てを失い、大きなビンに皆で小銭をためて、かあさんにステキなイスをプレゼントする。家族のお互いを思いやる心、大切に思う心が伝わる。</p>
 <p>5. しげちゃん 作：室井滋 絵：長谷川義史 出版社：金の星社（2011年）</p> <p>名前は、誕生した瞬間から両親の素敵な贈り物。最近是个性的であるが故に、心ない中傷に苦しむこともあるかもしれない。でも、親の想いを胸に、自分自身を生き抜いて欲しい。終りの滋の表情が、晴れやかで力強く、美しい。</p>	 <p>6. 王さまと九人のきょうだい—中国の民話— 訳：君島久子 絵：赤羽末吉 出版社：岩波書店（1969年）</p> <p>顔も体つきもそっくりな九人の兄弟が、悪い王様をたおす奇想天外なお話。九人の兄弟が名前（ちからもち・くいしんぼう等）にちなんだ力を発揮して、ストーリーは豪快にまっすぐに展開してゆく。中国イ族の昔話。</p>
 <p>7. ロバのシルベスターとまほうの小石 作：ウィリアム・スタイク 訳：せたていじ 出版社：評論社（初版1975年、新版2006年）</p> <p>ロバのシルベスターは魔法の赤い小石を見つけるがうっかり、岩になってしまう。両親は必死で探すが見つからない、両親が悲しむ最後のシーンで親子の愛情の強さを感じさせる。絶望してはいけないことも伝わる。</p>	 <p>8. ビリカ、おかあさんへの旅 文：越智典子 絵：沢田とき 出版社：福音館書店（2006年）</p> <p>川で生まれ、海で育ち再び生まれた川に戻り出産して子孫を残すサケの一生の物語。生命の繋がりを感じさせる。生まれた川がなぜわかるのか不思議。最後のたくさんのお母さんの声が聞こえてくるシーンは感動的。</p>
 <p>9. 山に木を植えました 著：スギヤマカナヨ 監修：畠山重篤 出版社：講談社（2008年）</p> <p>山に木を植えることで、自然のサイクルが蘇り、海を豊かにすることが出来る。今回の地震で、畠山さんの実践された事はゼロになってしまったように思えたが、自然の力は海を山を蘇えらせようとしている。</p>	 <p>10. ここが家だ 絵：ベン・シャーン 構成文：アーサー・ビナード 出版社：集英社（2006年）</p> <p>1954年3月にアメリカの水爆実験によって、死の灰を浴びた日本の漁船員の話。ページをめくるたびに、詩人の文と簡潔な線画から伝わる迫力に圧倒させられる。文中から、「けれど わすれるのをじっとまっているひとたちもいる」</p>

世田谷おはなしネットワーク

世田谷区内でおはなし会をするグループが、ゆるやかなつながりをもって連携し、組織の垣根を越えて紙芝居や素ばなしなど様々な表現がある活動を行っている。1997年より活動開始。現在、56のグループから成る。

1～10の順番で、小さな子向けから小学生向けまで、対象年齢順に並んでいます。



文・選＝世田谷おはなしネットワーク（天野、市川、倉島、鈴木、牧野）
写真＝平野太呂

「世田谷おはなしネットワーク」が選ぶ、
3.11以降に読みたい絵本

眠りの旅に立つ前に……



どうにも眠くなる展示会場にて、手前からタイの三角枕に竹村さん、ケニアの木の枕に佐々木さん、中国の抱き枕に生活工房・竹田。

「I'm so sleepy どうにも眠くなる展覧会」ができるまで

さ さ き ひ かる 佐々木光 (セセン設計所) / た け む ら ま ゆ こ 竹村真由子 (SunREOR) / た け だ ゆ み 竹田由美 (生活工房)

写真=阿部健 取材・文=生活工房

眠りを感じるといふこと

—— 私たちにとって当たり前の行為でありながら、未知の領域である「眠り」というテーマの展示が生まれたきっかけを教えてください。

竹田由美(以下、竹田) 生活工房は生活を扱う施設ですが、人間は人生の1/3を寝ているといわれるのに、これまで眠りをテーマにした企画がありませんでした。何かアプローチできないか、と考えていた時に出会ったのが、竹村さんが発行されている『LOUPE』という科学雑誌で、3号のテーマが「ねむりと感覚」でした。快眠に関するハウツー的な本は、読者も一緒に考えるのではなく、受け止める感じになってしまふ。だけど、眠りに対する「感覚」を大事にすれば、来場者もその感覚を拓くようなことができるのではないかと思っただけです。『LOUPE』を見た時に企画の半分ができました(笑)。

竹村真由子(以下、竹村) 眠りは自分で意識できない、意識したくても寝ているあいだのことは自分でも解らないのが面白いと思っていました。それに夢では痛みや匂いを感じないという噂や定説を耳にするけど、本当にそうなのか。そこを突き詰めたくて、寝ているあいだを敢えて感じてみようという『LOUPE』では「ねむりと感覚」をテーマにしました。竹田さ

んと展示企画を始めた当初は、「感じる」をどう体感させるかを考えていましたが、単に感じてもらうだけでは行き詰まってしまい……。ですが、会場の環境デザインをお願いした佐々木さんに関わってもらう中で、眠りの基本的な解説から感じる部分までをトータルで表現する方向に進んでいきました。

竹田 企画途中で大きな転機になったのが、佐々木さんが見つけた「体の声を聴ける社会を目指す」という言葉。眠くするのは体が寝たがっているシグナルだと思っんです。でも、それを無視して、ついテレビを見続けたり、明日でも構わない仕事をしてしまう。本当は自分の体の声を聴いてあげることが大切だろうと気づいたんです。

自然の眠り、それぞれの眠り

佐々木光(以下、佐々木) 生き方は多様で自由になったけど、眠りは自由になっていないという話をしていて、自由な眠りとは何だろうと考えていました。単純に全員が自由な眠りをとり始めると無秩序な社会になってしまう。だけど、自由という言葉を議論しているうちに、自由を「自然」という言葉に置き換えるとしつくりきました。では自然な眠りをどう手に入れるか、といえは、それは自分にか発見できない。個人々々がその自然さや気がつくには、映し鏡のように、実際の自然から自分のリズムを感じ取ることがヒントになると思っただけです。

—— 会場には地球のサイクルに同調するように、24時間周期でリズムを刻み、機能を変化させる動植物の生理現象であるサーカディアンリズムを立体的に表した展示物がありますが、そこにはカタバミがさりげなく置いてありますね。

竹村 カタバミのように身近な草花がサーカディアンリズムで開いたり、閉じたりするのを知るだけで、見方が違ってくると思います。

佐々木 例えば、洗濯する人は誰よりも空模様を意識するだろうし、どこかで自分の自然とのつながり方のきっかけが見つければいいですね。

夢のフシギ

竹村 『LOUPE』では夢を扱わなかったのですが、今回新しくいろんな情報を取りました。すると寝る楽しみが夢を見る楽しみにもつながりました。夢で見たことが、自分の内面を見るきっかけになるし、眠りの気づきにもなる。

竹村 洗濯する人にとって雨は嫌なもので、自分のすることを阻害する要因としてそれを否定してしまふ。だけど、その見方を変えることが楽しい。眠りに関しても、寝ているあいだは何もできないと思っるとつまらないけど、そこで何が起きているかを知ると、もっとな眠りに積極的になれるような気がします。

竹田 昨年の節電で看板が消えた時に、夜が暗くなる感覚をすごく自然なこととして思い出しました。自然な眠りを手に入れたいと思う一方で、社会のために不規則な勤務や時差のある生活をする人が背後にはいる。今回取材した消防士さんやパイロットさんには、本当は「無理をしている」という話を聞きたかったけど、みなさん意外と慣れてしまっと思うので(笑)。それも人間のすごさだと思っし、自然に同調して生きたいけれど、それだけではないという提示が、今回の展示のミソになったと思っします。

佐々木 夢で面白かったのが、夢の中で頬をつねると痛くないと言いますよね。でも、ある本には痛いと言っています。夢の中で葉っぱの感触や色なども鮮やかに再現している人もいるそうで、僕らの頭にはそれほどリアルに世界を構築できるイメージが入っている。今、みかんの形を思い浮かべることはできませんよね。それをずっと念じていると目の前に出せるような気もするけど絶対に出ない。でも夢の中ならそれができます。つまり、能力としてはありありとみかんのイメージを出せるけれど、起きているときは出していないだけだ。その想像力のたくましさというか、人のイメージする力のすごさを初めて知りました。

竹村 その話を聞いてから、起きていても本当に見えるような気がしちゃって。

一同 (笑)

佐々木 夢の世界を無意識に自分が作っているなら、それはすごく面白い。自然や世界とは自分の外とのつながりかと思っっていたら、自分の中にも世界の広がりを見つけた。眠りを通じてそこに気がつくとは思っませんでした。

竹村真由子(たけむらまゆこ)
SUNREOR代表。科学や自然、環境の分野を中心に、グラフィックやイラストを制作する。科学誌『LOUPE』を出版。
佐々木光(ささきひかる)
セセン設計所代表。自然のありようを記録しながら、その営みをもっと感じ考えることをテーマに活動。

イヌイットの壁かけについて

文＝笹倉いる美（北海道立北方民族博物館）



北海道の網走市にある北海道立北方民族博物館では、カナダ、アラスカ、ロシア、グリーンランドに暮らすイヌイト（イヌイット）の文化を紹介しています（イヌイトよりエスキモーの名称のほうがなじみがある方も多いでしょう）。トナカイ毛皮製の服や靴、アザラシを捕らえる話や、海上を移動する船、北の大地をすすむ橇など多彩な資料を収蔵しています。その中で、生活工房で展示していただいたのは「壁かけ」です。色鮮やかなダツフル地やフェルトを材料に、アツプリケや刺繍をほどこし、とりまく自然環境や日常生活の様子、神話世界などが表されています。イヌイトの壁かけ自体の歴史はそれほど古いものではありませんが、中にはイヌイトの縫製の技術や、物事の捉え方など彼らの文化が凝縮されています。今回の展示はそれほど多い数ではありませんでしたが、大勢をご覧になり、楽しんでくださったことを私たちがうれしく思っています。

笹倉いる美（ささくら・いるみ）
日本で唯一の北方地域を専門とする民族学博物館「北方民族博物館」（北海道網走市）学芸主任。生活工房では「北極海とイヌイトの壁かけ」でワークショップの講師を務めた。

モラを発明したのは誰？

文＝宮崎ツヤ子（モラ研究家）



ボディベインティングをしていたバナマのクナ族が民族衣装モラを着始めたのは1880年頃からと言われる。衣服を着る習慣はキリスト教関係など欧米人からの影響だと言われる。しかし、クナの女性は欧米風のブラウス・スカートをもそのまま着用することなく、交易で入手した布と糸・針・ハサミを用いて、50年足らずの短い期間に、民族衣装モラを作り上げた。

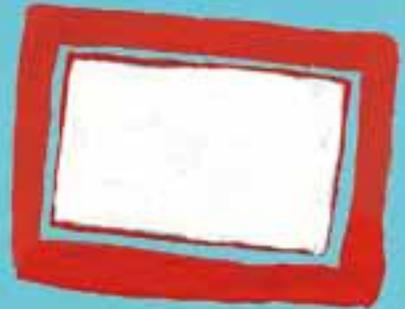
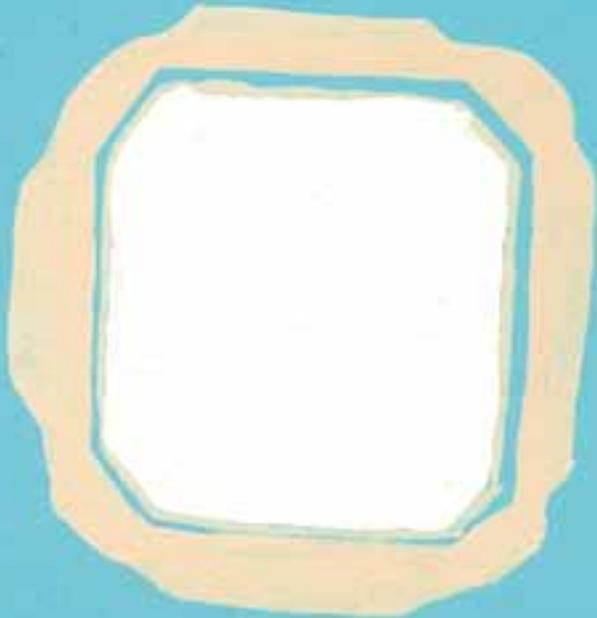
大英博物館などが所蔵する1920年代のモラを見ると、素朴な布を使い、縫い方も稚拙ながら、既に手芸としての「モラ」の手法が確立しているのがわかる。モラはモチーフを表現するとき、周りを布の溝（アウトライン）で囲む。ラインが複雑になると背景もそれに応じて複雑に変化する。色使いにも規則があり、トップ布は赤、黒、オレンジと決まっている。

クナの神パブ・トウンマットが霊界にモラの秘密を隠し、偉大なるムー（祖母）オロワキステイリが発見したという神話がある。

宮崎ツヤ子（みやざき・つやこ）
1935年東京都生まれ。モラ研究家。1973年にバナマでモラと出会い、以降、その紹介と普及に努める。生活工房では「カリブ海とクナ族のモラ」にて監修・講師を務める。



事業報告
展覧会
EXHIBITION





スタッキングできる飲料ケースで構成された会場(ワークショップB)の様子



キッズデザイン ワークショップの様子



アルファベットを立体的に積み重ねられる積み木コーナー



会場(生活工房ギャラリー)の様子

「積み」「重ねる」から、「カタチ」を考える

椅子や収納ボックス、コップなど、私たちの身の回りにはスタッキング(重ねることが可能な)機能を付加した製品が数多く存在する。昨年度実施した「DESIGN for LEFTY」展に続き、若手デザインユニット delibab (デリババ) の企画制作のもと、デザインの視点から「積み」「重ねる」行為に注目し、生活に関する優れた「カタチ」を提案した本展。シンプルでスタイリッシュな空間に、積み重なった状態で展示された30点あまりのプロダクトデザインのほか、delibab オリジナルのプロトタイプ作品の発表、フィールドワークで収集した積み重ねるデザインの数々、オリジナルのアルファベット積み木による「体験するスタッキング」コーナーなど、多角的に「積み」「重ねる」行為を考えたい。

食器や椅子といった日常生活で目にすることの多いプロダクトも、単体では見えてこなかった計算されたフォルムが、重ねることによって見えてくる不思議を来場者は実感した。

40代男性の声

重ねるだけといえばそれだけなのですが、それがとても深いことだと感じられた。

DATA

開催日 2011年6月16日(火)~7月12日(火) 会場 生活工房ギャラリー、ワークショップB 展示来場者数 3,500名 関連企画参加人数 121名 後援 社団法人日本インダストリアルデザイナー協会 企画制作 delibab(デリババ)

関連企画1 トークイベント「DESIGN 素材と身体から」開催日 6月25日(土) 14:00~15:30 会場 セミナールームAB 講師 黒川雅之(建築家/プロダクトデザイナー) 参加費 500円 参加人数 68名 関連企画2 トークセミナー「未来のプロダクトデザインを考え

る」開催日 7月2日(土) 14:00~15:30 会場 セミナールームAB 講師 下川一哉(日経デザイン編集長) 参加費 500円 参加人数 37名 関連企画3 キッズデザイン ワークショップ「心を重ねる・想いを重ねる」つながるコトをデザインしよう 開催日 7月10日(日) 11:00~17:00 会場 ワークショップA 講師 村田桂太、福田一郎(共にプロダクトデザイナー) 対象 小学3~6年 参加費 1,000円 参加人数 16名

電気自動車は私たちの生活をどのように変えていくのだろうか

電気自動車という次世代を担うモビリティをテーマにすることで、私たちの生活環境の変革とこれからのライフスタイルの変化について探求しながら、深刻化する地球環境を取り巻くエネルギー問題など、私たちが抱えている課題を再認識する機会とした。

電気自動車についての素朴な疑問を、質問形式で回答し、その基礎的な知識の習得機会を設けながら、同時に電気自動車の活用のコツを実際のユーザーへの取材を通じて紹介した。

また、生活工房で2005年度より6年間、中学生を対象に実施してきた「次世代車組立教室」の報告、企画を制作してきた日本EVクラブの16年間にわたる活動記録の紹介、電気自動車を販売している企業の次世代へむけての取り組みなども紹介し、近い将来の私たちの生活との関わりを探った。会場入口には日本EVクラブが制作した「ジャメコンタント号」も展示された。会期中「分解&組立」のワークショップを行った。



「電気自動車って本当に必要?」そんな基本的な疑問について考える企画展



日本EVクラブの手で「ジャメコンタント号」の分解作業および組み立て作業を上演



日本EVクラブの活動についても報告を展示

DATA

開催日 2011年3月20日(日)~4月5日(火) 11:00~19:00 会場 ワークショップAB、生活工房ギャラリー 来場者数 1,404名 協力 三菱自動車株式会社、日産自動車株式会社、三洋電機株式会社、日本ミシュランタイヤ株式会社、トヨタ自動車株式会社、本田技研工業株式会社、三工機器株式会社、横浜ゴム株式会社、東京都立総合工科大学、次世代自動車振興センター 企画制作 日本EVクラブ、有限会社アイエイチ・ファクトリー

30代女性の声

震災後、私たちはライフスタイルについて真剣に再考すべきことを報告展でも実感した。

若手人気アーティストであるBoojiil（ブージール）の個展として実施した本展。作家は、海外ひとり旅からインスピレーションを得た極彩色でピースフルな作風と、飾らない人柄で人気のイラストレーターだが、本展では、これまでに訪問した国々を作家目線のテキストと写真で紹介したほか、旅先で集めた各国の不思議な雑貨など、作品紹介だけに留まらない形で展示を行なった。また、週末は作家本人が在廊し、自身のオリジナルグッズや著書を販売した。

過去10年余りの作家活動の集大成として、老若男女を問わず非常に多くの来場者があった。アンケートでは「以前旅した異国を思い出した」「海外旅行にまた行きたくなった」といった感想が多く、作品の魅力はもちろんのこと展示意図も理解しやすかったようだ。

人気アーティストの活動および作品を、生活工房独自の視点を加味してタイミン
グ良く紹介できた。



本展示に合わせて制作した3mを超える大作を来場者に説明するBoojiil氏(右)



週末限定のグッズショップもBoojiilファンで賑わった



ワークショップ大人の部。お互いに質問をしながら自然と笑顔になっていたのが印象的だった



ワークショップ小学生の部。積極的にお友達を作ろうとする子どもが目立った

世界を旅するイラストレーターの作品から透かし見る異国の魅力

30代女性の声

カフェのようにゆっくりお茶を飲んで、ずっとこの空間にいたい気分になりました。

DATA

開催日 2011年8月19日(金)～9月11日(日) 11:00～19:00
会場 生活工房ギャラリー 展示来場者数 9,109名 関連企画参加人数 137名
関連企画1 『似てない似顔絵でコミュニケーション』 開催日 8月28日(土) 14:00～15:30 / 17:00～18:30 会場 ワークショップA 講師 Boojiil 参加費 小学校の部500円 /

大人の部1,000円 参加人数 34名 / 28名
関連企画2 『おっぱちゃん旅に出る劇場版』上映会&トーク&サイン会 開催日 9月4日(日) 14:00～16:30 会場 セミナールームAB トークホスト Boojiil トークゲスト 能町みね子(漫画家/エッセイスト) 参加費 800円 参加人数 75名



天体の動きと人の体温や眠気、自然の営みのリズムを表した立体



夢の仕組みを探る実験室



「生きものたちの眠り」展(文・さくまひろこ、絵・たけむらまゆこ)



世界の寝床で眠ることができる。どうにもねむくなるカフェも

24時間休むことなく動き続ける現代社会。もともと昼に活動し、夜に眠る体内時計を持った昼行性の生きものであるヒトが、昼夜の区別が曖昧になった世界でどのように眠りと向き合ったらいいのか、ともに考える展覧会として開催した。

会場では、地球の24時間のリズムに連動した生命のリズムを立体的に表現し、あわせて睡眠中に体の中で何が起きていのかを絵巻物のように展示。また、夢の仕組みを探る実験室、世界の人々の夢の価値観がわかるスライドショー、消防士やパイロットの方などへの睡眠リズムについてのインタビュー、生きものの寝姿のイラスト展など、眠りを多様な角度で掘り下げた。「この星の眠り」と題したコーナーでは、アフリカの木の枕、スイスの干草ベッド、日本の蚊帳など、色々な寝具で来場者が自由に眠ることも可能にした。それぞれの地域・気候にあわせた眠りの工夫を知ると同時に、世界の半分は常に夜で、その世界の半分の人とともに眠るような実感を届けることを目指した。

DATA

開催日 2012年3月2日(金)～3月18日(日) 会場 生活工房ギャラリー、ワークショップAB 展示来場者数 4,305名
関連企画参加人数 804名 共同企画制作 SunREOR 環境デザインセクション 特別協力 NPO法人睡眠文化研究会 企画協力 株式会社LD&K、オムロンヘルスケア株式会社、有限会社菊屋、SUNUS、株式会社三度、世田谷消防署、TSUTAYA三軒茶屋店、全日本空輸株式会社、hammock 2000、バイオニア株式会社、Breavo-para、無印良品くらしの良品研究所、ロフテア株式会社
関連企画1 どうにもねむくなるカフェ 開催日 会期中の土日 12:00～18:00 出店 NEXT KITCHEN 利用人数 591名

関連企画2 安眠ヨガ+ハーブアイピローづくり 開催日 3月4日(日) 14:00～16:00 講師 牧野里砂(ヨガインストラクター/JAMHAハーバルセラピスト) 参加費 3,000円 参加人数 19名
関連企画3 ママのためのおやすみLIVE 開催日 3月12日(月) 14:00～15:30 出演 羊毛とおはな 参加費 2,000円 参加人数 102名
関連企画4 睡眠文化フォーラム「SLEEP SWITCH」 開催日 3月18日(日) 14:00～17:00 講師 重田真義(京都大学教授)、藤本憲一(武庫川女子大学教授)、豊田由貴夫(立教大学教授)、土谷貞雄(無印良品くらしの良品研究所コーディネーター) 参加人数 92名

眠らない街で、眠りを感じ、考え、眠る展覧会

70代女性の声

何十年と眠りについて悩んでいるいる試しているが、ナチュラルに睡眠に入れるきっかけがつかうれそうだと感じた。



レコードショップさながらの会場風景。スクリーンを設置し上映も行った



伊藤氏と森本氏が制作したジャケットも展示した

「ジャケット買い」で再発見する ジャケットデザイン



見つけたレコードと伊藤桂司氏



レコードを探す森本千絵氏

音楽のデータ配信が一般化する中で、ジャケットデザインの魅力を「ジャケット買い」という行為を通じて再発見する展示企画。ジャケットとはジャケットの良し悪しを基準にレコードやCDを購入する、音楽ファンには馴染みの習慣である。本展では、ジャケットデザインを数多く手掛ける伊藤桂司氏(アーティスト)と森本千絵氏(アートディレクター)のジャケット買いやジャケット制作に密着した映像、そして32名のデザイナーが選んだレコードジャケットを展示した。

また会場には約3000枚の中古レコードを設置し、来場者が疑似ジャケット買いを楽しめ、その試聴も可能にした。会期中には参加デザイナーを招いたトークイベントも2度実施し、いずれも盛況であった。レコード世代ではない10〜20代が新鮮な眼差しでレコードを「掘る」姿が印象的であったが、音楽の街、下北沢との連携を強化し、今後も地域資源としての音楽文化へアプローチを試みていきたい。

DATA

開催日 2011年4月10日(日)～5月8日(日) 会場 生活工房ギャラリー 来場者数 7,594名 関連企画参加人数 140名 印刷協力 株式会社金羊社、東洋化成株式会社 協力 dublab、disques corde、イエローポップ下北沢店、シティ・カントリー・シティ、ディスクユニオン下北沢店、フラッシュ・ディスク・ランチ、ベスタクス株式会社 制作協力 伊藤桂司、森本千絵 映像制作 DBKN 参加デザイナー 阿部周平、井口弘史、石浦克(TGB design.)、石岡良治(enamel.)、伊藤弘(groovisions)、伊藤ガビン(NNNNY)、井上嗣也、浮舌大輔、江森文晃、大島慶一郎、大西隆介(direction Q)、大原大次郎、小田島等、片山中蔵、河村康輔(ZAIDE)、北山

雅和(help!)、木村豊(Central67)、小島史郎(Rich Black Inc.)、小辻雅史、佐々木暁、軸原ヨウスケ(cochae)、白根ゆたな、スケートシング、千原航、中澤耕平(ASYL)、生意気、ヒロ杉山、藤枝憲(Coa Graphics)、前田晃伸、溝端貢、ムーグ山本

関連企画1 **トークイベント1** 開催日時 4月29日(金・祝) 会場 ワークショップB 講師 千原航、江森文晃、小田島等 参加費 500円 参加人数 58名

関連企画2 **トークイベント2** 開催日時 4月30日(土) 会場 ワークショップB 講師 伊藤桂司、森本千絵、DBKN 参加費 500円 参加人数 82名

70代男性の声

昔ジャケット買ったことを思い出した。再び下北沢、吉祥寺あたりを散歩したくなりました。

日本人のこころの文化を再考する

自然と共存してきた日本の伝統文化を再確認することで、現代のライフスタイルを再考する展覧会を定期シリーズで開催。本年度は、日本の四季のうち、「夏」と「冬」からテーマをとった。

第1回では、日本の伝統文化を代表する素材で、その用途は文化芸術のみならず生活様式を含めて多様な「和紙」を紹介。折り紙文化や江戸の風物を表現した和紙人形など、幅広い年齢層に楽しんでもらえる作品を集めた。開催時は節電が求められる暑い夏であり、庶民が粋として楽しみながら涼を得ていた江戸の文化から、先人の知恵を感じてもらいたいという意図をこめた。

第2回では、室町時代から武家の礼法として受け継がれた「折形」や「水引」といった伝統美と機能美を備えた文化を紹介。会期中に新年を迎える祝いの季節に相応しく、日本の文化の持つ「人への気遣いの心」を「礼」の心の表現として伝えた。



体験セミナー「折形にみる伝統的な表現」



シリーズ第1回は、「和紙」文化について



連鶴など和紙文化にこめられた心遣いを学んだ体験セミナー



伝統的な形から現代風にアレンジされたものまで「折形」「水引」など、約120点を展示

DATA

vol.1 和紙がおりなす日本のこころ～連鶴・折形・和紙人形
開催日 2011年7月16日(土)～8月14日(日) 9:00～20:00
会場 生活工房ギャラリー 来場者数 7,726名 関連企画参加人数 53名 協力 お茶の水・おりがみ会館 企画制作 有限会社アイエイチ・ファクトリー

関連企画 **体験セミナー「夏文様を折る おりがみでみる和紙文化」** 開催日 8月6日(土) 14:00～16:00 会場 セミナールームAB 講師 小林一夫(おりがみ会館館長/NPO法人国際おりがみ協会理事長) 参加費 1,000円

vol.2 感謝をつなぐ祝いの決まりごと～包む・結ぶ・折る
開催日 2011年12月23日(金・祝)～2012年1月29日(日) 9:00～20:00 会場 生活工房ギャラリー 来場者数 9,489名 関連企画参加人数 31名 協力 お茶の水・おりがみ会館 企画制作 有限会社アイエイチ・ファクトリー

関連企画 **体験セミナー「折形にみる伝統的な表現」** 開催日 12月23日(金・祝) 14:00～16:00 講師 花村孝子(美学者、礼法評論家) 会場 セミナールームB 参加費 1,000円

60代女性の声

日本人として伝統文化に触れることは大切だと思う。折鶴などを見るだけでもなんだかホッとします。

「7つの海と手しごと」シリーズ(第2の海)として紹介したのは、北極海に広がる大雪原に暮らす、イヌイットが作った壁かけの数々。
狩りに出かける男性たちのために、防寒服をつくるのは女性たちの仕事だ。動物の骨から針を、腱から糸を作り、寒風や雪解け水をも通さない服を仕立てる技術は大変高度なもの。現在では防寒服のほとんどは毛皮からダツフル地のものに変わったが、その余り布に、高い縫製技術を活かし、色とりどりのフェルトを施して作られたのが、この壁かけ。海獣の狩猟や、犬ぞりで雪原を駆ける様子など、昔ながらのイヌイットの生活文化が生きた生きと描かれている。

本展ではイヌイットの壁かけ20点のほか、海獣の骨などでできた狩猟道具や裁縫道具、ぬいぐるみなどを展示し、合わせて現地の映像も上映。また、イヌイットの服の試着会をはじめ、ワークショップ、講演会など多彩な関連イベントで、極北の地の暮らしと文化にせまった。

Exhibition



壁かけ20点のほか、生活道具やぬいぐるみなども展示

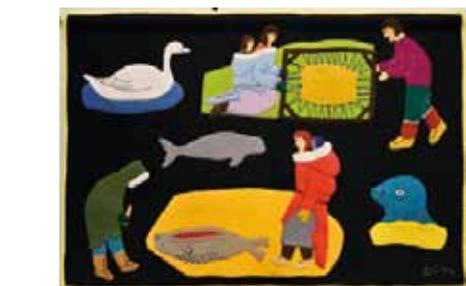


イヌイットの服試着会。子どもをフードの中に入れる「アマウティク」

失われゆく生活文化と精神を縫いこめた壁かけ

70代女性の声

お互いに遠い存在で一生知らないままかもしれないのに壁かけの絵は優しく楽しく近い存在に感じる。



描かれた日常風景から、イヌイット独特の精神世界も感じ取れる



「イヌイットの壁かけ」著者であり展示作品の旧蔵者である岩崎昌子氏のトーク&サイン会

DATA

開催日 2011年11月12日(土)~12月18日(日) 会場 生活工房ギャラリー 展示来場者数 7,440名 関連企画参加人数 171名
後援 在日カナダ大使館 特別協力 北海道立北方民族博物館、岩崎昌子 協力 国立民族学博物館、東京シネマ新社、LAVVO 結城伸子
関連企画1 **イヌイットの服試着会** 開催日 11月12日(土)、19日(土) 13:00~16:00 参加人数 34名
関連企画2 **トーク&サイン会「イヌイットの壁かけに出会って」** 開催日 11月13日(日) 14:00~15:00 出演 岩崎昌子

(「イヌイットの壁かけ」著者) 参加人数 50名
関連企画3 **上映会&ミニワークショップ「イヌイットの暮らしと遊び」** 開催日 12月4日(日) 10:30~12:30 講師 笹倉 倉 いる美(北海道立北方民族博物館) 参加費 800円 参加人数 37名
関連企画4 **講演会「イヌイット服飾今昔物語—材料、技術、精神の世界」** 開催日 12月17日(土) 14:00~15:30 講師 スチュアート ヘンリ(放送大学教授) 参加費 500円 参加人数 50名



会場にはモラだけでなく、クナ族のハンモックや日用品、現地の映像も展示した



モラは大胆な構図と鮮やかな色が特長(写真は「魚を持つ魚人」)



会場は連日多くの人でにぎわった



400枚もの画像を用いての講演会も大好評

海沿いに暮らす民族の手しごとを紹介することにより、海に囲まれた日本に住む我々が、遠い海でつながっている人々のことを思うきっかけにしたいと企画した「7つの海と手しごと」シリーズ。
(第1の海)として、パナマ共和国のカリブ海沿岸に暮らす先住民・クナ族の「モラ」と呼ばれる民族衣装のブラウスに施されたアップリケ刺繍を紹介した。多重アップリケともいえる手法で縫われた色とりどりの布とそのデザインからは、果てしない海への畏敬の念と、海に遊ぶ自由な想像力、豊漁の祈りと喜びが伝わってくるかのよう。母から娘へと受け継がれていく伝統的な手法と図柄の中にも、それぞれのクナの女性のファッションセンスが見て取れる。
モラ研究家の宮崎ツヤ子氏から、モラをはじめ貴重なクナ族の資料を多数お貸しいただいた。あわせて、現地取材した映像の上映、クナ族とモラについてのトーク、モラをつくるワークショップを通して、その魅力を伝えた。

DATA

開催日 2011年5月13日(金)~6月11日(土) 会場 生活工房ギャラリー 展示来場者数 8,292名 関連企画参加人数 361名
後援 パナマ共和国大使館 特別協力 宮崎ツヤ子 協力 COSPA「パナマの野生蘭を守る活動」、NPO日本カリブ海交流協会、輸入雑貨アスール 協賛 HORIGUCHI COFFEE
関連企画1 **講演会「クナの島々を訪ねて~そのときに出会ったモラたち」** 開催日 5月14日(土) 13:30~15:30 講師

宮崎ツヤ子(モラ研究家) 参加費 500円 参加人数 91名
関連企画2 **講演会「クナの暮らしとモラのモチーフ」** 開催日 5月28日(土) 13:30~15:30 出演 宮崎ツヤ子(モラ研究家) 参加費 500円 参加人数 90名
関連企画3 **3日体験「モラのミニタペストリーを作る」** 開催日 5月17日(火)、24日(火)、25日(水)、27日(金)、31日(火)、6月2日(木)、3日(金)、5日(日)、8日(水)、講師 宮崎ツヤ子(モラ研究所講師) 参加費 2,000円 参加人数 180名

30代女性の声

土地に根付いた伝統から、自分なりの好みやセンスを生活の中で常にうちだしているような気がして、ぐっととききました。

クナの女性のオシャレと誇り

展覧会



会場の様子



キャロットタワープラザ広場で実施したワークショップの様子



作品をのぞきこむ来場者

想像を超えた「ド迫力」のダンボール作品が キャロットタワーに出現！

身近な素材「ダンボール」を通じて、常に潜む刺激の発見を促す「地域と関わるワークショップ」を第2回世田谷区芸術アワード《生活デザイン》部門に提案した造形作家・玉田多紀氏。アワード受賞を機に、5月より区内各所でワークショップを実施。その参加者の作品および自身の作品の発表として、「創造するダンボール」展を10月に開催した。親子連れを中心とした来場者は、想像を超えるリアルさの大型ダンボール作品に驚いたり、子どもたちの作品を見て、その出来栄に感心していた。

「美術大学入学から約10年間アーティスト活動を続けてきた私にとって、過去を振り返るとともに近い将来に対するヴィジョンが明確となった。良いタイミングで本展を実施できた」と玉田氏自身が語るのとおり、芸術アワード事業の目的である「次代の文化・芸術分野を担う若手アーティストが飛躍する企画をつくるため、賞を設け発表の場を提供する」ことが十分に達成できた。

DATA

開催日 2011年10月14日(金)～16日(日) 会場 ワークショップB 来場者数 708名 関連企画参加人数 85名 協力 株式会社ベネッセスタイルケア 芦花翠風邸、世田谷区立三軒茶屋小学校
関連企画1 地域と関わるワークショップ 開催日時 5月20日(金)、21日(土) 会場 芦花翠風邸 講師 玉田多紀(造形作家) 参加人数 12名

関連企画2 地域と関わるワークショップ 開催日時 6月23日(木) 会場 三軒茶屋小学校 講師 玉田多紀(造形作家) 参加人数 54名
関連企画3 地域と関わるワークショップ「ダンボールサファリで恐竜の子どもをつくらう!」 開催日時 8月6日(土)、7日(日) 会場 キャロットタワープラザ広場 講師 玉田多紀(造形作家) 参加人数 19名

10代男子の声

木工本音が大好きなので、いっぱい使えて楽しかった。

「世界の現実」 フォトジャーナリズムが伝える

地球環境や貧困問題など、世界で起きている様々な問題について、その現状を受け止めて知ることで、異文化への理解を深めてもらうことを目的に、フォトジャーナリズム誌『DAYS JAPAN』と共催して「写真展」と「講演・報告会」を実施した。

TVや新聞ではなかなか報道されない世界の現状について、DAYS JAPANが主催する「DAYS国際フォトジャーナリズム大賞」の最新受賞作から過去3年までのさかのぼり作品を選択。国際的に活動する写真家の作品をコメントとともに紹介した。

「ハイチ・貧困が生み出す大地震の混乱」(中南米の資源開発・環境汚染と劣悪な労働環境)、「テロと紛争」(アジアの女性たち・追い込まれた人権と労働の現状)など9つのテーマから作品を選び、会場を構成した。同じ地球で生きる人間として、写真が示した「世界の現実」は、私たちの日常生活や文化についてまでも深く考えさせられる内容であった。



広河隆一氏(DAYS JAPAN代表)自身による、東日本大震災を撮影した作品も展示



シンポジウムでは、世界に向けて活動をしているNGOを招き、活動報告をした



ファインダー越しに写しだされた「世界の現実」。会場では69作品が展示された

DATA

開催日 2011年12月3日(土)～12月16日(金) 11:00～19:00 会場 ワークショップAB 来場者数 1,180名 関連企画参加人数 84名 共催 株式会社デイズジャパン 企画制作 株式会社世田谷社
関連企画1 トークイベント 広河隆一×林典子「私たちが世界の未来にできること～ジャーナリストの視点から」 開催日 12月10日(土) 14:00～16:00 会場 セミナールームAB 講師 広河隆一(DAYS JAPAN代表、フォトジャーナリスト)、林典子(フォトジャーナリスト) 参加費 1,000円

参加人数 52名
関連企画2 NGO活動報告シンポジウム「私たちが世界の未来にできること～世界の現実と解決の取り組み」 開催日 12月11日(日) 14:00～16:00 会場 セミナールームAB 講師 名取郁子(認定特定非営利活動法人難民を助ける会)、成田由香子(特定非営利活動法人ACE)、外木絢子(特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会) 参加費 1,000円 参加人数 32名

50代男性の声

世界には厳しい現実の中で暮らす人々がいることを実感した。胸がつかまる想いでした。

留学生は日本で何を勉強しているの？

20代男性の声

発表者、聴衆の双方がとても多くのことを経験できる企画だと思いました。

JAPONDER 8 第8回留学生研究発表会



留学生による研究発表会



交流会では留学生の出身国のお茶とお菓子でもてなし



ウズベキスタンの家庭料理教室



研究概要のパネルを展示

JAPONDERとは、フランス語のJAPON (= 日本) と英語の PONDER (= 熟考する・沈思する) との合成語で、2005年の第1回開催時に参加した留学生により命名された。祖師谷国際交流会館で活動するボランティア団体SUNUSと共催で、留学生と地域をつなぎ、彼らを通して多岐の学術分野に触れる企画でもある。今年、インド、インドネシア、ウズベキスタン、グルジア、タイ、中国、ブラジルから8名の留学生が参加。パネル展示や研究発表会を通して専門的な研究を分かりやすく紹介。「奥の細道」や「源氏物語」に関する発表もあり、留学生を通して、私たち日本人が自国の文化に改めて気付かされる場面もあった。関連イベントは、ウズベキスタンの家庭料理教室を開催。毎年、留学生が手がけるポスターデザインも、今年には Ciselda Caecilia TRUSU 氏(インドネシア・多摩美術大学大学院)が日本の家紋をモチーフに、留学生たちの活躍をデザインに表した。

DATA

開催日 2011年9月14日(水)~10月5日(水) 9:00~20:00
会場 生活工房ギャラリー 来場者数 3,562名 関連企画参加人数 102名 共催 SUNUS 協力 独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)、財団法人日本国際教育支援協会(JEES)
関連企画1 **ウズベキスタン料理教室** 開催日 9月29日(木) 11:00~15:00 会場 ワークショップA 講師 Akobir

KURBONOV(東京工学院日本語学校) 参加費 1,000円 参加人数 18名
関連企画2 **留学生による研究発表&交流会** 開催日 10月1日(土)、10月2日(日) 13:00~16:00 会場 ワークショップB 参加人数 84名

家族と地域を見つめ続けてきた写真館の役割

世田谷でも年々数が減っていく写真館。カメラが一家に一台以上ある現代では、自然の成り行きかもしれない。しかし、気がつくとも手元には、家族の誰か(撮影者)が写っていない写真ばかり残っていないだろうか? 本展では、世田谷の家族を見つめ続けてきた写真館の役割に注目した。

世田谷に店を構える写真館8館に、出品を依頼。それぞれの写真館の紹介とともに、そこで撮られた家族写真を額に入れて展示した。あわせて、世田谷写真館マップも配布し、来場者と写真館を結びつける役割を担った。また、家族写真のステキな飾り方を提案するとともに、写真という媒体を通し、家族の結びつきを考えるきっかけになることを目指した。

家族写真は、家に飾ってもらうことで、より各家庭の中で大切な写真となっていく。台紙に入れて渡すまでが写真館の仕事ではなく、飾り方も提案していかねければならないと気付いたと、出品した写真館からの声が聞かれた。



写真館の中に入り込んだような会場風景



昭和4年製のジャパラ写真機を迎える。覗き込むと、椅子の前に立った人が逆さに映り込む



壁紙や額縁も、写真にあわせてさまざま



部屋の中で家族写真を素敵に飾る提案も

50代男性の声

写真館が身近なアートの場であることに気付かせてくれた。

DATA

開催日 2011年10月9日(日)~11月6日(日) 会場 生活工房ギャラリー 来場者数 5,770名 関連企画参加人数 7名 協力 協同組合東京都写真館協会世田谷支部、株式会社カラワークス・FARROW & BALL、ISU HOUSE 上柳 出品 あかばね写真館、大泉写真スタジオ、有限会社小林写真館、有限会社島田フォトスタジオ、有限会社橋本写真館、

広瀬スタジオ、有限会社フォトスタジオはしもと、有限会社吉浦写真館 アートディレクション 株式会社 Lucy+k 関連企画 **フォトデコレーション・ワークショップ** 開催日 11月3日(木・祝) 14:00~16:00 講師 gg 原田さちこ(雑貨コーディネーター) 参加費 1,500円

未来の先に見えるもの

私たちの住む街は、100年後どうなっているだろうか？ 東日本大震災の凄惨な被害を目の当たりにし、また目に見えない放射性物質は未来の日常とも無関係ではなくなった。大きな転機を迎え、改めて未来をテーマに展示を企画した。

本展の意図は「未来を想像することであり、翻って現実と対峙すること。環境問題や社会問題に直面し、不安を抱える未来だが、先人たちの偉業のように、時代を拓くヒントは常に想像力の中に潜んでいるはずである。」

展示にはイメージーション豊かな創作を続ける7名のアーティストが参加。世田谷の日常から100年後を想像し、ドローイングやペイント、アニメーション、サウンド作品などで表現した。

目立ったのは「残る」という視点。歴史ある寺社やボロ市、ヒトの記憶や存在というテーマは示唆的で、時代の空気とともに進歩主義とは異なる未来感を映し出した。未来の姿は誰にも分からないが、世田谷の未来を来場者へと問いかけた。



会場風景。天井から未来の街並みを想起させる吊り物を下げた



qp氏はビット感のあるカラフルな街を描いた



佃氏は松陰神社を描いた



大原氏はボロ市で買ったもので作った100年後のカレンダー

DATA

開催日 2012年2月3日(金)~2月26日(日) 会場 生活工房
ギャラリー 来場者数 4,720名 企画/制作 古屋藏人 参加作家 伊藤桂司、大原次郎、qp、近藤さくら、菅 俊一、佃弘樹、ひらのりょう デザイン 坂脇慶

20代女性の声

現在の延長に100年後もある、という感覚は初めて体験されました。



次世代を担う中学生のための、次世代車体験教室

中学1年男子の声

免許を取ったら電気自動車に乗ります。全4回、楽しかったです。来年も参加したい。

子ども体験ワークショップ「中学生電気フォーミュラーカー教室」
才能の芽を育てる体験学習～地球環境を考える～「中学生ハイブリッドカー教室」



「筑波サーキットコース1000」で、完成した電気フォーミュラーカー「サイド・バイ・サイド」の試走



スタッフに指導を受けながら、電気自動車の組み立て作業に集中する中学生たち



組み立てた後での記念写真



「中学生ハイブリッドカー教室」で製作した「中学生ハイブリッドバギー1号」

生活工房では2005年度から、次世代を担う中学生を対象にして、電気自動車やハイブリッド車などの次世代車体験教室を実施している。本年度も主催事業として「中学生電気フォーミュラーカー教室」、教育委員会からの受託として「才能の芽を育てる体験学習」地球環境を考える「中学生ハイブリッドカー教室」の2企画が開催された。

設備が充実している都立総合工科高等学校をお借りして、環境やエネルギー、次世代車の構造に関する講義をはじめ、電気自動車、ハイブリッドバギーの組み立て実技や試乗を、それぞれの教室で行った。

本企画は、日本EVクラブを中心に、メーカーの協力のもと多数の専門家が講師やスタッフとなり、中学生参加者をサポートするのも魅力のひとつ。

参加者全員で協力して次世代車を組み立てた体験は、中学生にとって貴重な経験となり、未来に向かうための誇りと自信につながったはずである。

DATA

中学生電気フォーミュラーカー教室

開催日 2011年5月29日(日)、6月19日(日)、7月28日(木)、11月3日(木・祝) 会場 東京都立総合工科高等学校、筑波サーキット 講師 館内端(日本EVクラブ代表)他 対象 中学生 参加費 3,500円 参加人数 32名 主催 生活工房 協賛 本田技研工業株式会社 協力 三洋電機株式会社、三工機器株式会社 企画制作 日本EVクラブ

中学生ハイブリッドカー教室

開催日 2011年7月10日(日)、7月17日(日)、7月28日(木)、11月3日(木・祝) 会場 東京都立総合工科高等学校、筑波サーキット 講師 館内端(日本EVクラブ代表)他 対象 中学生 参加費 無料 参加人数 22名 主催 世田谷区教育委員会 共催 東京都立総合工科高等学校 協賛 トヨタ自動車株式会社 企画制作 日本EVクラブ

手から感じることで、手を動かして考えること

デザインの見点から、「うつつわ」と「食べもの」の関係を探るワークショップ。食べものとなる野菜は、地元の農園を訪れて収穫し、みんなで野菜のおやつを調理した。その後、うつつわの形はどのように生まれるのか、プロダクトデザイナーの吉田守孝氏から、九谷焼の陶器をモデルに教えてもらった。最後は保護者を招いてのパーティーを開き、今日一日の体験を語り合った。

ものをつくる時に大切なことは、自分で感じることで、手を動かして考えること、そして人に伝えられること。地域や身近な暮らしの中にも、デザインについて考え、学ばせたいと感じた。



手から知るうつつわとやさい

DATA

開催日 2011年7月24日(日)9:00～17:00 会場 ワークショップルームA、中杉農園 講師 吉田守孝(プロダクトデザイナー)、伊藤彩(料理家) 対象 小学3年生以上 参加費 1,000円 参加人数 21名 企画 コド・モノ・コト

参加者の声

畑でやさいをとったり、とてもつめたい井戸の水をさわったり、めずらしい体験がたくさんできました。

ありえない動きもつくれちゃう、コマ撮りであそぼう！

映像はなんで動いてみえるの？ という疑問を、アニメーション制作の中から紐解いていくワークショップ。スマートフォンとアプリケーションを使って、子どもたちが登場人物となる実写アニメーションを撮影した。

人が飛んだり瞬間移動したり、ありえない映像が撮れるのも、コマ撮りの面白さ。動画が一枚一枚の静止画からつくられているという仕組みも実感することができる。完成したアニメーションは、インターネット上にアップロード。身近な道具となったスマートフォンを活用して、つくるだけでなく、自分たちの作品を発信することをゴールにした。



参加者の声

発表した時にみんなが笑ってくれた。

14歳のワンピース

DATA

開催日 2011年12月3日(土)、4日(日)、10日(土)、11日(日) 会場 ワークショップA
 講師 飛田正浩(spoken words project デザイナー) 対象 中学2年生女子 参加費 4,000円 参加人数 9名
 関連企画 生活工房ギャラリー「14歳のワンピース」展 開催日 2012年3月24日(土)~4月1日(日) 会場 生活工房ギャラリー 来場者数 1,532名

4日間かけて参加者がつくったのは、14歳の心と体を記録するワンピース。デザイナーの飛田正浩氏を講師に迎え、14歳の思いや感情を模様におこし、布にプリントした。完成した布は工場で裁断縫製してワンピースに仕立てた。

とても個人的な記憶や出来事も、抽象的な色や形に削ぎ落とすと、そこに共感が生まれ、遠くまで響いていくメッセージとなる。それがデザインということなのだろうか。なにも置かれない余白にも、14歳の気持ちが、みっちり詰まっているように感じられた。

14歳の心と体を記録するワンピースをつくる



参加者の声

1つの形に残るものを作ることができて本当に楽しかったです。



撮影会



心模様を色と形に表してみる

DJ体験教室 — STAGAYA★MIX 2011 —

DATA

開催日 2011年10月29日(土)、30日(日)
 14:00~17:00 会場 ベスタクス株式会社本社DJブース 講師 DJ Top Bill 対象 中高生 参加費 6,000円 参加人数 9名
 協力 ベスタクス株式会社

中高生を対象とした「音をデザインすること」をテーマとしたDJスクラッチ体験ワークショップ(「スクラッチ」は、ターンテーブル上で回転するレコードを直接手で操作して音を出すというDJ特有の演奏技法)。

参加した子どもたちは、初めて触る本格的なDJ機材を使って、スクラッチの基本的なテクニックである「ベイビースクラッチ」「チョップスクラッチ」などをプロDJから学びながら、リズムに乗る楽しさや自分がつくった音を人に伝える喜びを体験した。

プロDJから音を表現する楽しさを学ぶ



10代男子の声

とにかく機材に触れて楽しかった。実際に手元を見て学べたのも良かった。



分解ワークショップ~家電製品の仕組みを探ろう!

日常的につかっている家電製品(ノートパソコン、電子レンジ、掃除機、DVDレコーダー)を、企業協力のもとに参加者(小学生)の手で分解しながら仕組みを調べる体験型のワークショップ。中身を調べるだけでなく、ドライバーなど道具の正しい使い方、リサイクル問題についても学習する。分解する家電製品は株式会社東芝より提供された(各製品はショールームや店頭展示品として使用していたデモ機を中心に集めた)。ワークショップ当日は、メーカー技術者やデザイナーなどの専門職を中心とした社内ボランティアが「分解博士」として参加者のサポートを行った。

製品のネジを丁寧にドライバーで開くと、参加者から「おおっ！すごい！こうなっているのか!」との声があふく。分解を通じて子どもたちに伝えたいのは「製品の仕組み」とともに「モノに対する理解と愛着」。一つの製品が多くの人の研究の成果として、みんなの家庭に届くことを実感してもらえたら嬉しい。

日常生活を丁寧に観察することで、子どもたちの科学的好奇心が目覚める!



分からない箇所は分解博士に質問しながら作業



グループごとに分解して気づいたことを博士とともに話し合う



ネジをひとつひとつ丁寧に外しながらノートPCの分解に挑戦する

DATA

開催日 2011年11月12日(土)、11月13日(日) 13:30~17:00
 会場 ワークショップAB 講師 金子金次(メディア・アドバイザー)、東芝ボランティアスタッフ延29名 対象 中学生 参加費 1,000円(親子2人1組) 参加人数 32組(16組×2日) 延64名 協力 株式会社東芝



最後に博士と一緒に記念撮影

小学5年男子の声

パソコンはとても精密な部品で組立てられていて、これを設計した人はすごいなと思いました。

様々なデバイスが投入され、電子書籍への関心も高まる中で、話題の多くがインフラやマーケット的であるのに対し、デザインを切り口に電子書籍と本に関するセミナーを行った。

講師としてお呼びしたのは、誰でも電子書籍がつくれる「ウェブサイトBCCKS」の開発を行ったグラフィックデザイナーの松本弦人氏と日本デザインセンターの原研哉氏。いち早く電子書籍におけるフォーマットデザインを発表したBCCKSのデザインの解説や、原氏が関わったウェブ環境における日本のタイプグラフィの研究会に関して、対話形式で話が進み、それぞれのデザイン観を垣間見ながら、具体的なデザイン設計にまで話が及んだ。

黎明期である電子書籍のデザインは、今後様々な観点から提案、検証がなされるはずである。その普及や一般化へ向けてデザインが果たす役割は少なくないだろうが、電子書籍における「読みやすさ」の議論はまだ始まったばかりである。

電子書籍と文字のデザインを考える



松本弦人氏(右)と原研哉氏(左)



多くの人が熱心に耳を傾けた



BCCKSのデザインについて話す松本



自身のデザインについて話す原氏

30代男性の声

「職能とシステムの狭間でゆれる「本」と「文字」が面白かった。」

DATA

開催日 2011年9月11日(日) 会場 セミナールーム 講師 松本弦人(グラフィックデザイナー)、原研哉(デザイナー) 参加費 1,000円 参加人数 73名 協力 BCCKS





上映会風景



vol.2 ヒノキの皿と箸づくり



vol.1 姫田忠義さん伊勢真一さんによるトークイベント



vol.3 神社を会場にした切り紙ワークショップ

積み重ねてきたものを、忘れていないだろうか？

30代の声

既製品しか目にしない中、古くからの日本の伝統の知恵と技のすばらしさとともに、労力のかけ方にとっても驚きました。

Life in Filmでは、布、木、紙を特集して年3回、計17作品の記録映像を上映した。半世紀にわたり日本の生活文化を記録してきた民族文化映像研究所。その作品には、草木の命をいただいて、衣食住の暮らしをつくってきた先人たちの姿が記録されている。

糸を紡ぎ布に織る、木をはつる、美しく強い紙を漉く、映像は日本の暮らしの肌理のようなものを鮮やかに映し出す。先人が丹念に積み重ねてきた歴史の層。その厚みと深さに気付くこと、自分の足元を見つめ直すことの大切さを、映像は教えてくれた。

「みる」の上映会の後には、トークイベントや映像にまつわるワークショップも行い、「さく」「つくる」という体験からもテーマを探求した。津軽こぎん刺し、職人の道具でつくる木の皿と箸、地域の神社を会場にした切紙づくりなど、映像作品の世界を自分の手を使って体験した。

DATA

開催日 vol.1 布と生活 2011年6月18日(土)・19日(日)
vol.2 木と生きる 2011年9月17日(土)・18日(日) vol.3 紙にこめる 2012年2月18日(土)・19日(日) 会場 セミナールームAB 参加費 上映会1回券500円、3回券1,200円、トークイベント300円 来場者数 延633名 ワークショップ参加人数 76名 協力 民族文化映像研究所、優れたドキュメンタリー映画を観る会、いせフィルム、日本民藝館、太子堂八幡神社
関連企画1 トークイベント「記録者の声を聞く—姫田忠義×伊勢真一—」 開催日 6月19日(日) 16:00~17:00 ワークショップ「津軽こぎん刺しの美にふれる」 開催日 6月25日(土) 13:00~17:30 講師 山端家昌(kogin.net主宰、グラフィックデザイナー) 参加費 4,500円 会場 日本民藝館、

北沢地区会館 参加人数 26名
関連企画2 トークイベント「木の文化をみつめる—姫田忠義×木村治兵衛—」 開催日 9月18日(日) 16:10~17:10 ワークショップ「木にふれる—ヒノキの皿と箸づくり」 開催日 9月19日(月・祝) 講師 村瀬治兵衛(漆工芸家) 参加費 4,500円 会場 ワークショップA 参加人数 23名
関連企画3 トークイベント「日本の暮らしと紙—澤幡正範×下中菜穂—」 開催日 2月19日(日) 16:10~17:10 ワークショップ「紙に神がおりてくる。日本の白い切り紙をつくる」 開催日 2月25日(土) 17:00~19:30 講師 下中菜穂(造形作家+もんきり研究者) 参加費 3,000円 会場 太子堂八幡神社 参加人数 27名

私たちの生活における「本当の豊かさ」を探求

日常生活の中で、私たちの生命をあらゆる角度から支えている繊維。日本の優れた研究と技術力によって、それは日々進化し続けている。

本企画は衣服造形家・眞田岳彦氏が5つの領域「衣」「医療」「食」「移動」「住」から、各分野の専門家や企業内開発者をゲストスピーカーとしてお招きし、先端技術をテーマに、私たちの生活の「今」と「未来」を考察する連続セミナー(全5回)。毎回、眞田氏からも、私たちが未来へ向けて選択すべきライフスタイルについてのヒントが、作品を通じて考察された。

私たちの生活と技術の発展について、時には観念的な視点からも検証することで、一人ひとりの暮らしにとって「本当の心の豊かさ」とは何かを考える機会を目指した。現代社会において、先端技術は生活の利便性を向上させるだけでなく、社会全体で活かされることで、人をつなぎ、新しいコミュニティの形成に寄与する可能性がある。このセミナーを通じて、そんな未来を実感することができた。



毎回、各分野の専門家からレクチャーを受ける



眞田氏の作品による提案



色水を膜ろ過する実験(第3回「食」より)



防刃ベストの試着(第1回「衣」より)

DATA

会場 セミナールームAB、ワークショップA 進行 眞田岳彦(衣服造形家)、吉川新吾(織研新聞社) 参加費 [一般] 1,000円 [学生] 800円 協力 白十字株式会社、日清紡テキスタイル株式会社、大塚製薬株式会社、株式会社織研新聞社 企画制作 サナダスタジオ
第1回「衣 Fashion~身体化するファイバー」 開催日 2011年5月28日(土) 講師 堀井二三男(株式会社廣瀬商会、TES会東日本支部代表幹事)、水野伸介(日清紡テキスタイル株式会社) 参加人数 63名
第2回「医療 Medical~再生する皮膚と心の布」 開催日 2011年7月23日(土) 講師 黒柳能光(北里大学大学院医療系研究科教授)、藤田直哉(社団法人日本衛生材料工業連

合会) 参加人数 61名
第3回「食 Food~生命をつなぐ繊維」 開催日 2011年10月1日(土) 講師 峯岸進一(東レ株式会社、工学博士)、鶴谷良一氏(ユニチカ株式会社 医療事業部) 参加人数 56名
第4回「移動 Transport~人が移動するためのファイバー」 開催日 2012年1月28日(土) 講師 福田哲夫(インダストリアルデザイナー)、石山孝二(東邦テナックス株式会社) 参加人数 60名
第5回「住 Architecture~人と空間を包む繊維」 開催日 2012年2月18日(土) 講師 大野定俊(株式会社竹中工務店)、斉藤嘉仁(太陽工業株式会社) 参加人数 54名

20代女性の声

普段の生活では何気なさ過ぎて気付かない部分でも、私たちの生活は先端の技術によって支えられていることがわかって興味深い内容でした。



講演の様子。講師の勝木言一郎氏



完成した麺「楽餅」



トークの様子。冷水希三子氏(右)、稲盛有紀子氏(左)



麺(楽餅)を吊るしてのばす

日々の食事の文化的な背景はどこからきているのか？身近なテーマである「食」を通して世界とのつながりを知る本企画では、広く世界中で食されている麺に注目した。

講演では、敦煌文書など古代の文献や絵巻を紐解き、当時の暮らしぶりや現代との類似点を学ぶことでみえてくる日本と世界とのつながりを意識。ワークショップでは、文献から読み解かれた古来の製麺法の試作、資料映像の視聴、ミニ・トークの3部構成で、多角的な切り口から麺にアプローチした。

この他、現代の麺の代表、インスタントラーメンの生みの親である日清食品ホールディングス株式会社へインタビューを行い、その記録や「めんの系譜図」等の資料を配布。古代から現代までを駆け巡った。

様々な視点で、参加者自らが五感を活かして麺に秘められた歴史と文化の味わいを探り、世界とのつながりを体感した。

DATA

会場 ワークショップA 特別協力 株式会社京阪神エルマガジン社、日清食品ホールディングス株式会社 協力 株式会社メディア・ワン、TSUTAYA三軒茶屋店
 企画1 講演「麺の源流をたどる」 開催日 2011年11月18日(金) 18:30~20:30 講師 勝木言一郎(独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所) ナビゲーター 宮下佐江子(公益財団法人古代オリエント博物館 学芸部長) 参加費 500円

参加人数 61名
 企画2 ワークショップ「切る・もむ・のばす 麺づくり」 開催日 11月19日(土) 水引餅と六宝猫耳麺、20日(日) 楽餅と鱈魚 各日とも10:00~15:00 講師 冷水希三子(フードコーディネーター) トーク 稲盛有紀子(株式会社京阪神エルマガジン社) 参加費 3,000円 参加人数 41名

日本語の豊かさ、美しさを体感する

ことばの持つ力・豊かさを「朗読」の世界を通して体感し、日常生活を豊かに送ることを目指した講座。NHK日本語センターのアナウンサーが講師となり、基礎からはじめ表現力の向上を目指して聞きやすい声の出し方、聞き手に伝えるための読み方を少人数制の丁寧な指導のもとレッスンした。「坊っちゃん」などのなじみ深い名作を題材に、音で表現する楽しさを学びながらスキルアップが図れるよう工夫を凝らした内容となった。朗読発表会では、各講座での指導や日頃の練習成果を活かして心をこめて朗読し、読み手も聴き手も、あらためて日本語の美しさを実感できる機会となった。



豊かなことばの世界フライヤー



朗読発表会のはがき



朗読発表会

DATA

開催日 年4回各4講座(水曜午前・午後、木曜、金曜) 会場 セミナールーム 出演 財団法人NHK放送研修センター日本語センター 参加費 20,000円(4回分)、アツカード会員は18,000円 共催 財団法人NHK放送研修センター日本語センター 参加人数 139名
 関連企画 朗読発表会 開催日 2012年3月11日(日) 参加人数 70名

70代女性の声

読む楽しさ、聞く楽しさを味わわせていただきました。

世田谷のまちを撮る、カメラを通して見つけた風景

写真というメディアを通して地域を見つめる講座。写真家の桃井一至氏を講師に迎え、はじめに一眼レフカメラの機能や使い方の基礎を学んだ。その後まちに出て、新緑の馬事公苑から駒沢給水塔までを散策しながら撮影。弦巻から歩いて行くと、道の先に大正12(1923)年に施工された歴史ある建造物が現れる。地元で活動する駒沢給水塔風景資産保存会にガイドをお願いし、給水塔の役割や歴史のお話もいただいた。最後は、お気に入りの一枚を選んだの講評会。人の作品から学ぶことも講座の面白さである。作品はギャラリーカフェくりっくにて展示し発表した。



歴史あるたたずまいの駒沢給水塔



馬事公苑



カフェくりっくでの展示

DATA

開催日 2011年6月5日(日) 13:00~16:30 会場 セミナールームB、馬事公苑、駒沢給水塔周辺 講師 桃井一至(写真家)、ソニーマーケティング株式会社 参加費 5,000円 参加人数 10名 共催 ソニーマーケティング株式会社 協力 駒沢給水塔風景資産保存会 関連企画 ギャラリーカフェくりっく展示「カメラをもって世田谷散歩」 開催日 2011年7月10日(日)~8月20日(土) 会場 ギャラリーカフェくりっく 来場者数 6,950名

30代男性の声

都内にこれだけ面白い撮影スポットがあることが良かったです。

節電の時代に電気自動車は有効か

環境への配慮は、現代社会において今や当たり前となり、様々な場面における選択基準としても重要である。地球で生きる私たちにあって、数十年後には枯渇してしまう石油エネルギー資源の問題は、緊急を要する時を迎えている。

そこで注目を浴びているのが、次世代車として登場した脱石油が可能な電気自動車だ。昨年の世田谷芸術百華「現代に蘇るジャメコンタント」電気自動車のルーツを探る」に引き続き、今回は、これからの生活とエネルギーの問題に重点を置き、私たちの生活と電気自動車との上手な付き合い方について、日本EVクラブ代表・館内端氏とともに考察した。

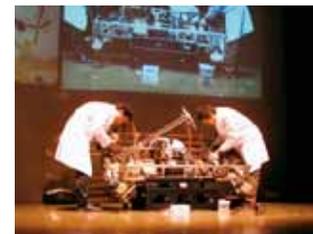
舞台上では、日本EVクラブの技術スタッフで電気自動車を部品の状態から組み立てながら、その仕組みについて館内氏が解説。家庭における電気自動車の有効な活用方法など、未来に向けて人類が選択すべきライフスタイルについて語られた。

30代男性の声

電気自動車の構造がシンプルなのに驚いた。いろいろな学ぶことが多かった。

DATA

開催日 2011年12月3日(土) 14:00～16:30
 会場 北沢タウンホール
 講師 館内端(日本EVクラブ代表)
 聞き手 鳥塚俊洋(JAF MATE編集長)
 来場者数 72名 主催 世田谷区
 企画制作 生活工房、日本EVクラブ
 ●世田谷芸術百華2011



舞台上で電気自動車を組み立てながら進行



教材に使用した「ジャメコンタント号」(日本EVクラブ製作/撮影=三浦康史)

3・11の震災を 釜石市の菊地信平さんの写真で振り返る

2011年3月11日、岩手県釜石市の写真館経営菊地信平氏は、大きな揺れの直後地震の様子を写そうと一台のカメラを持って表に出た。

その時、ひたひたと流れてきた津波があつという間に怒涛のごとく押し寄せ、逃げながら撮影した写真の数々。以来、自らも避難所で暮らしながら、被災者の生活の様子や変わり果てた町のあるがままの姿を撮り続けている。

暗闇の中をトラックの荷台に乗って避難してきた子どもたち、破壊された建物のそばに花を咲かせた桜、秋のコスモス、遅しく地を這うかぼちゃの黄色い花、復興の先陣を切って催された釜石の港まつり、そして町の人たちの笑顔。

心の目が捉えた500枚の記録と、特別上映した津波の様子(隣接する両石町の方がビデオ撮影した記録)と併せ、多くの参加者が被災地への思いを新たにする機会となった。

50代男性の声

写真もビデオも住民自身がつたもので、その瞬間の生の映像に圧倒されました。

DATA

開催日 2012年3月15日(木)
 会場 セミナールーム 参加人数 72名 お話 菊地あき子



写真=菊地信平



菊地あき子氏の解説



事業報告

地域と 市民活動

DATA
 開催日 2012年2月23日(木) 18:30~21:00
 会場 セミナールームAB 講師 関口宏聡
 (NPO法人シーズ プログラム・ディレクター)
 対象 市民活動団体従事者など 参加費
 1,000円 参加人数 54名 後援 世田谷区 協
 賛 特定非営利活動法人世田谷NPO法人協議
 会 企画制作 株式会社世田谷社

NPOにとって寄付や会費などの自己資金の調達は、事業を安定的に継続していくためだけでなく、自分たちの存在意義を社会に広めていく手段でもある。

2011年のNPO法改正および新寄付税制の成立に尽力した「NPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会」のスタッフを講師に招き、新しい認定NPO法人制度の概要に加え、自己資金の調達方法について、ヒントやノウハウを学ぶセミナーを行った。

今後の活動に関わるテーマ故に、参加者も熱心に聴講し、濃い内容となった。



講師の関口宏聡氏



熱心にメモを取る参加者が目立った会場の様子

NPO法人における自己資金の調達について学ぶ

第20回国際交流inせたがや2012

DATA
 開催日 2012年2月25日(土) 13:00~16:00
 会場 ワークショップルームAB、セミナールームAB 参加費 1,000円 参加人数 274名 共催
 世田谷海外研修者の会

生活工房では、区民団体が行う国際交流事業を共催し、サポートしている。

今年で第20回となった「国際交流inせたがや」は、在日外国人との文化交流をテーマに行われる区民手づくりの国際交流事業である。22カ国の大使館大使、書記官等を来賓に迎え、274名が参加。

トルコの民族舞踊などのアトラクションや、お茶やお花・着付けなどの日本文化を体験することができた。また、10カ国からPRブースが出店し、各国の特産品の販売や文化紹介が行なわれ、区民と在日外国人との交流が行われた。



民族衣装を身につけたブースの方々



参加国によるPRブースの様子

区民による手づくりの国際交流世界を知り、学び、交流する

DATA
 開催日 2011年10月10日(月・祝) 会場
 こどものひろば公園、世田谷八幡宮、善養寺、多摩川の河原 講師 ゆかい(池田晶紀、ただ、川瀬一絵、後藤武浩) 参加費
 3,000円 参加人数 38名(大人31名、こども6名、乳児1名)
 ●世田谷芸術百華2011

参加者と、写真家・池田晶紀氏ひきいる「ゆかい」のスタッフが、面白い集合写真の撮影を目的として、世田谷区内の名所やフシギな場所をめぐった。「未だの自分が写真を見たとき、楽しんでくれるように」をテーマに、多彩なストーリーで写真を撮影。大人や子ども、家族やカップル、1人など、さまざまな参加者が、初対面ながらツアーの中で打ち解け、持参したカメラで撮影し合い楽しんだ。そして完成した集合写真には、とっておきの笑顔がまつまっていた。その成果はDVDにまとめ、後日上映会(11月23日)も開催。参加者の家族や友達を含め、29名もの参加があった。



多摩川の河原にて 撮影=高橋希



こどものひろば公園にて 撮影=高橋希



善養寺にて 撮影=ゆかい

おもしろい場所で ゆかいな集合写真をつくる!

バスツアーワークショップ 世田谷の地下に潜る

DATA
 開催日 2011年10月22日(土) 会場 等々力溪谷、玉川大師玉眞院地下霊場、小田急電鉄下北沢駅シモチカナビ、世田谷代田駅 講師 長谷川均(国土館大学 地理・環境専攻教授)ほか 参加費 1,500円 参加人数 22名 協力 小田急電鉄株式会社
 ●世田谷芸術百華2011

自然の中で観察する太古の地層から、人の手による最先端の地下化工事まで、普段何気なく歩いている世田谷の地下に広がる世界を体験。

等々力溪谷では地形と地層を、玉川大師では裸足で地下霊場を、そして地下化が進む小田急電鉄では下北沢駅から世田谷代田駅間の地下工事現場を見学した。

等々力溪谷のように身近な場所から、日頃は入ることができない工事現場など、世田谷区民にとって身近な生活の場にある非日常を体験するツアーとなった。現地で専門的な解説を聞きながら見学できたことに多くの良い感想をいただいた。



等々力溪谷にて地層を観察



下北沢駅の地下工事現場



世田谷代田駅の地下工事

世田谷アンダーグラウンドを巡るマジカル・バスツアー!

参加者の声

世田谷区がこんなにアツイなんて知らなかった。

会場を彩る手仕事感あふれるアート作品たち

今年度で15/16回を迎えた地域密着型イベント「世田谷アートフリマ」は、もろを通じて世田谷のまちや活動するひとを繋ぐアートイベントとして、毎回6000人を越える来場者で賑わいをみせている。

その特徴は、世田谷を中心に活動する延べ150組の作家が、さまざまな素材を用いたオリジナル作品を販売するほか、豆本づくりなど、その場で参加できるワークショップが楽しめることだ。また、作家とのコミュニケーションを直接楽しめるのも大きな魅力となっている。

より幅広い層の人々にアートフリマの楽しさを知ってもらう機会として実施してきた「世田谷アートフリマ出張編」は、昨年度に引き続き世田谷文学館にて開催した。文学館周辺の区民を中心に、昨年を大きく上回る来場者があった。市民参加型アートイベントとして、安定成長のフェイズに突入した本イベント。今後も「ものづくりの楽しさ」を訴求していきたい。



作品を見ながら作家さんと話すのも楽しみの一つ



その場で申し込み可能なワークショップも連日盛況だった



世田谷アートフリマのゆるキャラ「せたがやじん」も大人気



文学館の開催では地域の区民の来場者が目立った

DATA
開催日 [Vol.15] 2011年4月23日(土)~24日(日)、[Vol.16] 9月24日(土)~25日(日) 会場 生活工房ギャラリー、ワークショップAB、セミナールーム 来場者数 [Vol.15] 約4,000名、[Vol.16] 約6,000名 共催 世田谷アートフリマプロジェクト 協力 世田谷233 関連企画 世田谷アートフリマ in 文学館 開催日 11月3日(木・祝) 会場 世田谷文学館 来場者数 約500名

地域と市民活動

10代女性の声

安くて良いものがある。売っていない出展者がいるのが嬉しい。

多様な市民活動がさらに活発に

生活工房では、世田谷区内の公益的な市民活動団体の活動促進や区民の社会活動推進の場として、「市民活動支援コーナー」を設置している。運営委託したNPOとともに、市民活動の活性化を進めている(2012年3月時点で511団体が利用登録)。NPOによる運営も軌道に乗り、細かい工夫と配慮による利用環境の向上に努めている。

また、同コーナーに登録している市民活動団体のPRイベントとして「ハロウィン喫茶パオ」を開催。各団体の活動紹介等のパネル展示や、各団体の特色を生かした商品を販売するブースを設け、団体間の交流の場、来場者へ活動成果を発表する場にした。



コーナー内に建てられたパオ



大判出力スペース



市民活動支援コーナー

市民のネットワークで危機を乗り越えられるか

世田谷区には、NPOをはじめとした市民活動やボランティア団体を支援する組織・団体があり、市民活動の場となる施設や助成金の提供などさまざまな支援を行っており、6つの支援組織と世田谷区で「より良い地域社会を作るための市民活動」を支えるネットワークを構築している。

本年は、災害をテーマに交流会を開催。「東京で直下型地震が起きたとき、あなたはどのようにする?」という設定のもと、専門家によるレクチャーと地震発生後3日間の行動をシミュレーションするワークショップを行い、地域における助け合いや日頃の情報交換の大切さを実感する機会となった。

世田谷市民活動支援会議

DATA
共催 社会福祉法人世田谷区社会福祉協議会、財団法人世田谷トラストまちづくり、社会福祉法人世田谷ボランティア協会、特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会、特定非営利活動法人世田谷NPO法人協議会、世田谷区地域福祉部生涯現役推進課、世田谷区生活文化部市民活動推進課 関連企画 せたがや市民活動交流会 開催日 2011年12月4日(日) 14:00~17:00 会場 北沢タウンホール 講師 市川啓一(株式会社レスキューナウ危機管理研究所代表取締役/特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会特別顧問) 参加人数 33名



講師の市川啓一氏



グループごとに発災後の行動を話し合った



自分を示すコマを経過とともに動かしシミュレーション

Local community

DATA

開催日 2011年8月17日(水)～19日(金) 11:00～15:00 会場 ワークショップAB 出演 16グループ 特別ゲスト 松井位子 来場者数 延1,301名
 共催 世田谷おはなしネットワーク 協力 世田谷区立中央図書館、世田谷区立児童館
 関連企画1 講演会 開催日 6月23日(木) 会場 セミナールームAB 講師 國井明美 参加人数 71名
 関連企画2 講演会 開催日 11月8日(火) 会場 セミナールームAB 講師 広瀬恒子 参加人数 67名

30代女性 & 4歳、2歳の声

手あそびなど、知らない遊びを子どもたちが遊べて良かった。



わらべ唄勉強会



特別ゲスト・松井位子

世田谷おはなしネットワークと共催する本企画は、今年11回目を迎えた。今年もおはなし会では、幼児から小学生まで対象年齢を分けた幅広いプログラム構成で、紙芝居、素ばなし、手遊び、わらべ唄、パネルシアターなどの多彩なプログラムを実施した。来場者には、リピーターも多く、夏の恒例イベントとして多くの区民に親しまれている。

本企画は、区内で活動する読み聞かせの会や児童館・図書館と連携して開催することで、参加グループ同士のつながりを充実させるとともに、親子のコミュニケーションの場づくりを目指している。

ギャラリーカフェくりっく壁面展示

DATA

開催日 通年13企画程度 展示期間 4週間 会場 ギャラリーカフェくりっく 展示費用 有料

年間展示スケジュール〔2011年度に開催した展示〕

2011	4月期	亀亀会老人クラブ和紙ちぎり絵
	5月期	Night Fantasy 夜の幻想曲
	6月期	チンチン電車が走っていた街
	7-8月期	カメラをもって世田谷散歩
	8-9月期	世田谷ゆかりのイラストレーション
	10月期	あいえぬじ～展
	11月期	ペイントスタジオchou-chou* グラスペイント展[燵]2011 surf
2012	1月期	留学生の写真展
	2月期	塚原俊彦 ガッシュ展 宮沢賢治第二集
	3月期	花に魅せられてIV
	4月期	写真展 無農薬野菜のおたより 本城正治

三軒茶屋を行き交う人々がお茶を囲み憩うスペースの壁面をつかって、市民作品を発表できる「ギャラリーカフェくりっく」。駅直結のタワー2階と便利な立地も手伝って、ふとお茶を飲みを訪れる人は1日2000人にのぼるといい、作品発表の場としてもすっかり定着している。

壁面に飾れる作品という制約はあるものの、写真・イラスト・木工作品・絵画・押し花・和紙ちぎり絵・トールペイント・グラスペイントなど多種多様な作品群が、4週間ごとに入れ替わり、カフェのひとつときに豊かさや安らぎを添えている。

市民アーティストの表現の場



6月の様子



4月の様子

生活工場の 美味しいレシピ

ワークシヨップやカフェを通じて、今年度も生活工房では世界の料理を紹介してきました。ここではそんな美味しいレシピを公開します。



写真||阿部健

すやすや眠れる

レタスとあさりのチャウダー

【材料】 4人分

玉ねぎ……………1個
じゃがいも……………1個
にんじん……………1/2個
ヒヨコ豆(水煮)……………60g
アサリ(むき身)……………150g
ベーコン……………2枚
レタス……………2枚
小麦粉……………大さじ1
水……………カップ2
牛乳……………カップ2
クラッカー……………4枚

粉チーズ……………適量
ローリエ・タイム……………適量
サラダ油……………適量
塩・コショウ……………少々

【作り方】

(1) 玉ねぎとじゃがいもは皮をむいて1cmの角切り、にんじんは皮をむいてイチョウ切りにする。ベーコンも1cmの角切りにし、レタスは千切りにしておく。
(2) 鍋にサラダ油をひき、弱火でベーコンをじっくり炒める。玉ねぎとじゃがいも、にんじんを加えてしんなりするまで炒める。

(3) 小麦粉をふって、全体に絡ませながら炒めたら、ヒヨコ豆、ローリエ、タイムを加え、水を注いで中火にかける。沸騰したらアクをいねいに取り除く。
(4) アサリと牛乳を加えて一煮立ちさせ、塩・コショウで味を整える。
(5) たっぶりのレタス、粉チーズ、砕いたクラッカーをトッピングしていただきます。

レシピ作成：中山晴奈 (NEXT KITCHEN)
「I'm so sleepy」の土日限定カフェの
“すやすや系”メニューとして供されました。

ツルんと
美味しい
ウズベキスタン
の味

チュチュワラ(水餃子)



【材料】 4人分
 玉ねぎ …… 中1個
 トマト …… 小1個
 牛ひき肉 …… 200～300g
 パセリ・長ねぎ …… 適量
 サラダ油 …… 大さじ1
 塩・コショウ …… 適量
 ワンタンの皮 …… 15枚

【作り方】
 (1) 玉ねぎを細かく刻む。
 (2) ひき肉に刻んだ玉ねぎを入れ、塩とコショウを加え混ぜる。
 (3) ワンタンの皮に肉を少し入れ、つつむ。
 (4) 鍋に水を入れ、沸かす。

(5) 餃子を鍋に入れ、5～10分くらい茹でる。
 (6) 刻んだ玉ねぎとトマトをフライパンで炒める(塩適量で味つけする)。
 (7) 茹であがった餃子をお皿にのせ、(6)をのせ、長ネギやパセリなどで飾る。

餃子を広めのお皿に移して食べる方法は家庭的ですが、茹で汁と一緒に茶碗に入れてスープのように食べることもあります。その時、プレーンヨーグルトを入れたりもします。

「JAPONDER 8」の関連企画「留学生の国の家庭料理をつくろう～ウズベキスタン編」にて調理しました。

元祖！
手延べ麺
「ほうとう」の
源流



すいじんべい
水引餅

【材料】 4人分
 中力粉 …… 400g
 麺に加えるスープ …… 210～220cc
 塩 …… 20g

【作り方】

(1) 豚肩ロースを煮出し、スープに塩をとかして冷しておく。
 (2) 粉をボウルにふるい入れ、スープを少しずつ加えながら箸で混ぜ、手でこねて生地をまとめる。
 (3) 丸めた生地に、濡らした布巾(サララップでも可)を被せ、室温で30分～60分ほど休ませる。
 (4) まな板に打粉をして生地をのせ、麺棒で厚さ1cm程度にのばす。作業中に生地が乾

かないよう、湿ったキッチンペーパーをかけておく。

(5) 生地を5mm幅ほどに切り、打ち粉をしたまな板の上で、手でローラーのように転がして棒状(箸くらいの太さ)になるまで引きのばす。

(6) 「(5)」を水に浸け、手でもみ、にらの葉位の厚さまでのばす。

(7) のばした麺を、水4リットルを鍋で沸かし、半透明になるまで5分～10分ほど茹でる。

(6) 麺をざるにあげ、流水で洗う。

レシピ作成＝冷水希三子(フードコーディネーター)

「世界を旅する麺之路」のワークショップにて調理しました。



竿掛け
「そうめん」の
源流！

まくべい
索餅

【材料】 4人分
 中力粉 …… 340g
 米粉 …… 60g
 塩 …… 18g
 水 …… 200～210ml
 植物油 …… 適量

【作り方】

(1) 中力粉、米粉、塩を大きめのボウルにふるい入れる。
 (2) 「(1)」に、水を加えながら箸で混ぜ、手でこねて生地をまとめる。
 (3) 丸めた生地に、濡らした布巾(サララップでも可)を被せ、室温で30分～60分ほど休ませる。
 (4) 打粉をしたまな板に生地をのせ、手の腹や麺棒で1cmの厚さに丸くのばす。

(5) のばした生地の端から、幅1cm程度の切り目を螺旋状に入れる。

(6) 長いひも状に切り取った生地を、植物油をつけながら指でもみ、丸めながら麺状にのばす。

(7) のばした麺を、竿に掛ける。

(8) 水4リットルを鍋で沸かし、麺を10分～15分ほど茹でる。

(9) 麺をざるにあげ、流水で洗う。

レシピ作成＝冷水希三子(フードコーディネーター)

「世界を旅する麺之路」のワークショップにて調理しました。



とれたて
野菜を
トッピング！

じゃがピザ

【材料】 4人分
 じゃがいも …… 2個
 (皮をむいて正味200g)
 ホットケーキミックス …… 100g
 サラダ油 …… 大さじ1/2

○トッピングの具はお好みでピザソース、とろけるチーズ、ウィンナー、ピーマン、ミニトマト、コーン、なす、バジル等

【作り方】

(1) ジャがいもを薄切りにする。水にさらさず使う。
 (2) 「(1)」とホットケーキミックス、水大さ

じ4強をボウルに入れ混ぜる。

(3) フライパンを熱して油をうすくひき、「(2)」を流し入れて手早く広げる。このとき、厚さを均等にするのがポイント！

(4) 焼き色がつくまで中火で3～5分ほどじっくり焼く。

(5) 裏返してピザソースを塗り、具とチーズをトッピングする。

(6) ふたをしてチーズが溶けるまで焼く。

レシピ作成＝伊藤彩(料理家)
 子ども体験ワークショップ「手から知る、うつわとやさい」にて調理しました。



for kids

3

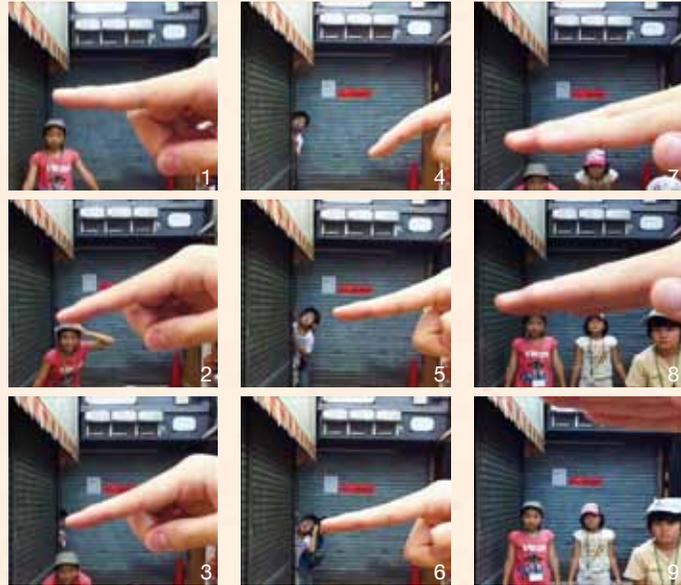
おてがる・おきらく・アニメーション



はい、ポーズ

iPhoneを使って
実写の動画を作ろう!

iPhoneのカメラやアプリケーションを使ってアニメーションを作りました。三軒茶屋の商店街や広場を舞台に屋外ロケも敢行。最新機材を使い、コマ撮りアニメの原理を楽しく学びました。



遠近法を利用して、指の動きにあわせて子どもたちも動きます。みんなの動きを合せるのが大変でした



大人対象の回でのオリジナリティ溢れる力作

4

for kids & adults

似てない似顔絵でコミュニケーション

「たびたびひとり旅」展開連ワークショップ

似顔絵を描いて友達を作ろう!

「似てない似顔絵」は、言葉がなかなか通じない国々をBoojilさんが旅行するなかで考案したコミュニケーションツール。お互いに簡単な質問をしながら似顔絵を描くので、子どもから大人までいつの間にかお友達に!



相手の好きなものを描きます



これぞまさに「似てない似顔絵」

みんな夢中で描いています

for kids

1

「重ねる行為」「つながるコト」をデザインしよう

「Stack-ing Design」展開連ワークショップ



形が同じで平たいものは大量に積み重ね可能

どこまで積めるかな?



棒状のものでも積み方を工夫すればこの通り

ワークショップ・レビュー
みんなで作った
ものを大紹介

「重ねる行為」「つながるコト」をカタチに!

お互いの動作を真似するゲームや伝言ゲームなどを通じて、行為としての「つながる」「重ねる」をスタッフとともに話し合い、紙粘土でカタチにしました。

2

for kids & adults

ダンボールサファリで恐竜をつくろう!

「創造するダンボール」展開連ワークショップ



立ちあがったカエルがなんとキュート

ダンボールを使ったアート作品にチャレンジ!

イメージスケッチから始まり、ダンボール集め、水に浸して紙へ戻す作業といった作品づくりの準備工程からチャレンジした子ども達。個性的な本格的アート作品が完成しました。



高齢者施設入居者がつくった「恐竜のたまご」



展示されたワークショップ参加者作品

迫力満点!

6

for adults

海にまつわる手しごと

カリブ海と北極海の手しごとを体験

「カリブ海とクナ族のモラ」展では、カメ・ネコ・カニ・ウサギ・鳥が魚をとるモラの5種類を作るワークショップを10日間開催。「北極海とイヌイットの壁かけ」展の関連イベントでは、イヌイットヨーヨーを作りました。

カラフルで
たのしい作品が
できました



カラフルなイヌイットヨーヨー



複数の布を縫い付けるモラ独自の手法



完成したモラ



華やかに
デコレーション

大切な写真をコラージュで飾ろう！

写真を部屋の中で素敵に飾るには？ 雑貨コーディネーターのgg・原田さちこさんを講師に迎え、造花・壁紙・レースペーパーなど様々な素材を使って、持ち寄った思い出の写真をデコレーションしました。



海外の写真をその土地の地図とともに



様々なパーツでコラージュ中

7

for adults

フォトデコレーション

5

for adults

Life in Film

布、木、紙と手の仕事

毎回、上映作品にまつわるものづくりワークショップを開催。映像を観て昔を懐かしむだけでなく、そこから学び、今の暮らしに活かして楽しむことがゴールです。

Vol.1
津軽こぎん刺しの
カードケース

津軽こぎん刺しとは青森県津軽地方に伝わる伝統的な刺し子のこと。日本民藝館でその実物を鑑賞した後、制作をスタート！



奇数目(1目、3目、5目...)に刺し、菱形の文様が生まれます



豆こ、猫のマナグ(眼)など、身近な動物や自然をモチーフに生まれた模様

ちくちく
ちくちく

切り出す
ところから
体験します



お借りしたプロの道具と立派なひのき



料理にお菓子に、いろんなシーンに使えるお皿です

Vol.2
ひのきの皿と箸

講師の村瀬治兵衛さんに用意して頂いた上質なひのき材を使い、木の種類や性質について教えて頂き、丸太から板を切り出しました。

図案が
いっぱい



山形県米沢市のキリハライ



飾りつけ

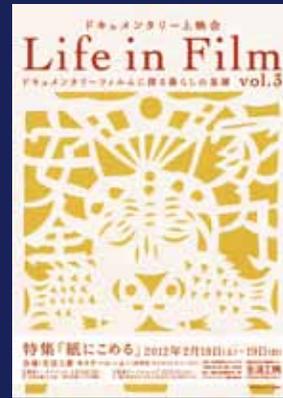
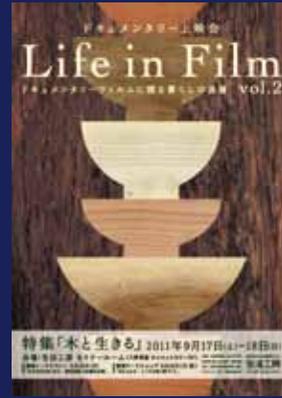
Vol.3
切り紙

太子堂八幡神社を会場に行ったワークショップ。神事と紙のつながりや歴史についても学び、伝統的な切り紙づくりを楽しみました。



正月や季節の行事など、暮らしの折々に切り紙を添えて楽しんでみましょう

生活工房 Graphics
チラシ・ギャラリー



(上左)「Life in Film vol.1 布と生活」
(上右)「Life in Film vol.2 木と生きる」
(下)「Life in Film vol.3 紙にこめる」
デザイン=山端家昌



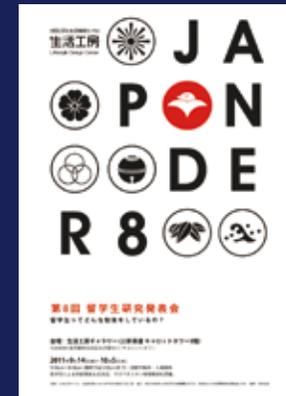
(左)「Stack-ing Design 積み重ねる、カタチ。」
(右)「電気自動車でご飯を炊こう!」
デザイン=片山中蔵



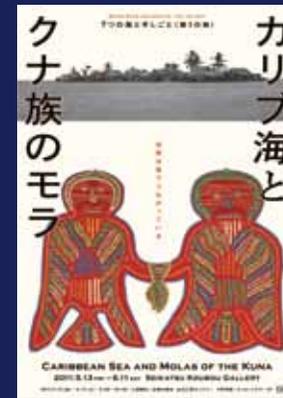
「子ども体験ワークショップ」
デザイン=古賀鈴鳴



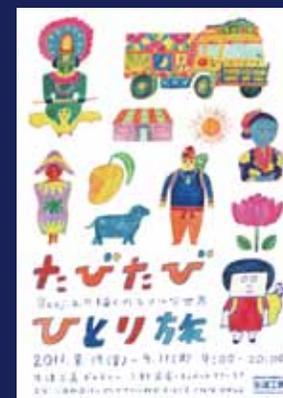
「玉田多紀 作品/活動発表展
創造するダンボール」
デザイン=佐藤洋美



「JAPONDER 8」
デザイン=Criselda Caecilia TITUS



(左)「カリブ海とクナ族のモラ」
(右)「北極海とイヌイットの壁かけ」
デザイン=direction Q



「たびたび ひとり旅
Boojilが描くカラフルな世界」
デザイン=すぎはらけいろろ



(左)「14歳のワンピース」、(右)「DJ体験教室 SETAGAYA★MIX2011」
デザイン=渡辺明日香



「デザインで読む『本』と『電子書籍』」
デザイン=松本弦人



(左)「ジャケ買いのピガク 誘惑するジャケットデザイン」
(右)「100年あとの世田谷」
デザイン=坂脇慶



「写真館の写真展」
デザイン=Lucy+k



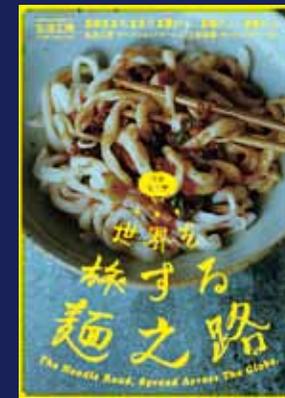
(上左)「和紙でおりなす日本のこころ
連鶴・折形・和紙人形」
(上右)「感謝をつなぐ祝いの決まりごと
包む・結ぶ・折る」
(下)「EVが約束する未来展」
デザイン=アイ・エイチ ファクトリー



「14歳のワンピース」展
デザイン=榎本太郎
撮影=池田晶紀(ゆかい)



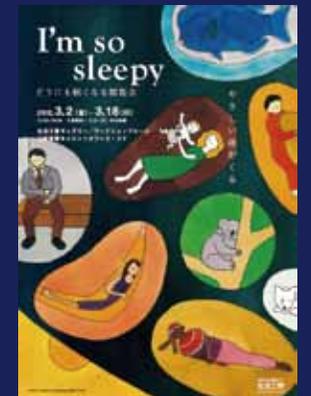
(左)「分解ワークショップ」、(中)「中学生ハイブリッドカー教室」、(右)「中学生電気フォーミュラカー教室」
デザイン=瀬畑和美



「食の文化史 世界を旅する麺之路」
デザイン=藤田康平 (Barber)
撮影=田中陽子



「DAYS JAPAN写真展」
地球の上に生きる2011
私たちが世界の未来にできること」
デザイン=世田谷社



「I'm so sleepy
どうにも眠くなる展覧会」
デザイン=竹村真由子 (SunREOR)



「生命をつつむ未来繊維」
デザイン=八十島博明

数字でみるともっとわかる!!
生活工房 データベース

[1] 来場者数

■ 来場者総数 236,651名

□ 展覧会 163,334名

□ ワークショップ 1,183名

□ セミナー/イベント 2,365名

□ 地域と市民活動 38,323名

□ 貸館使用者 31,446名

[2] 事業数

■ 事業総数 105件

□ 展覧会 9件

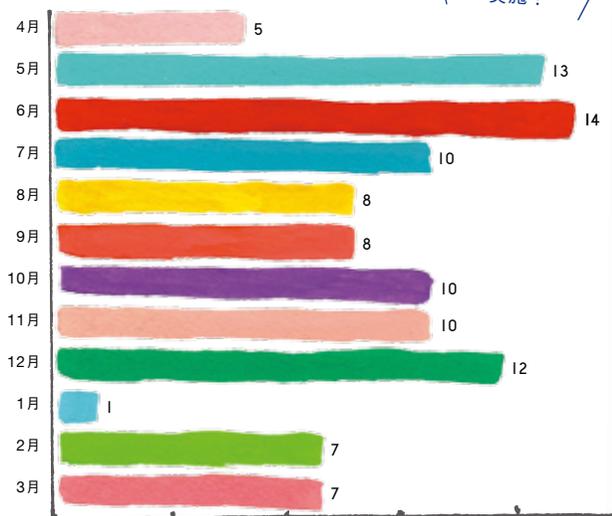
□ ワークショップ 16件

□ セミナー/イベント 13件

□ 地域と市民活動 15件

□ 関連事業 59件

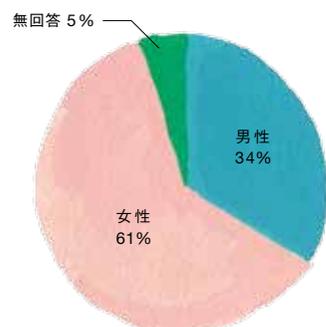
月ごとの事業分布



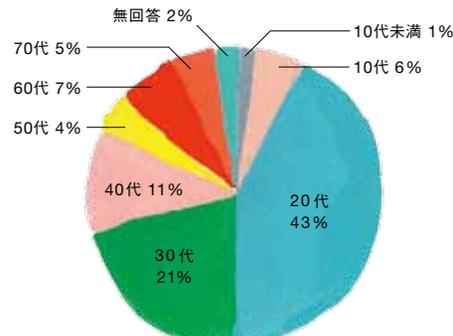
[3] アンケート

展覧会「I'm so sleepy どうにも眠くなる展覧会」の場合

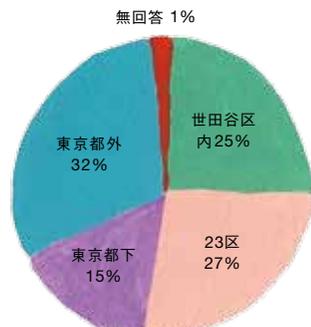
いろんなデータを
みてみよう!!



[来場者男女比]

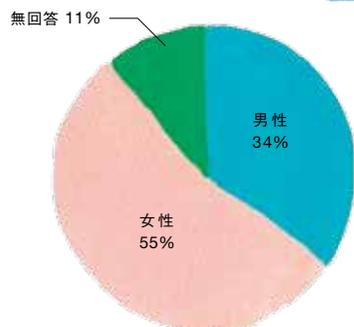


[来場者年代別]

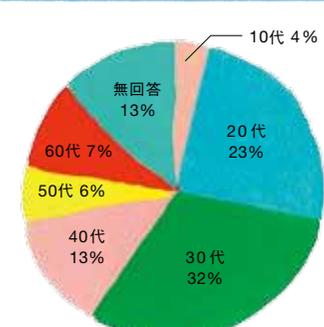


[来場者の住まい]

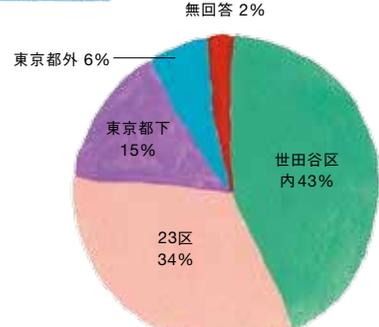
セミナー「デザインで読む『本』と『電子書籍』の場合



[来場者男女比]

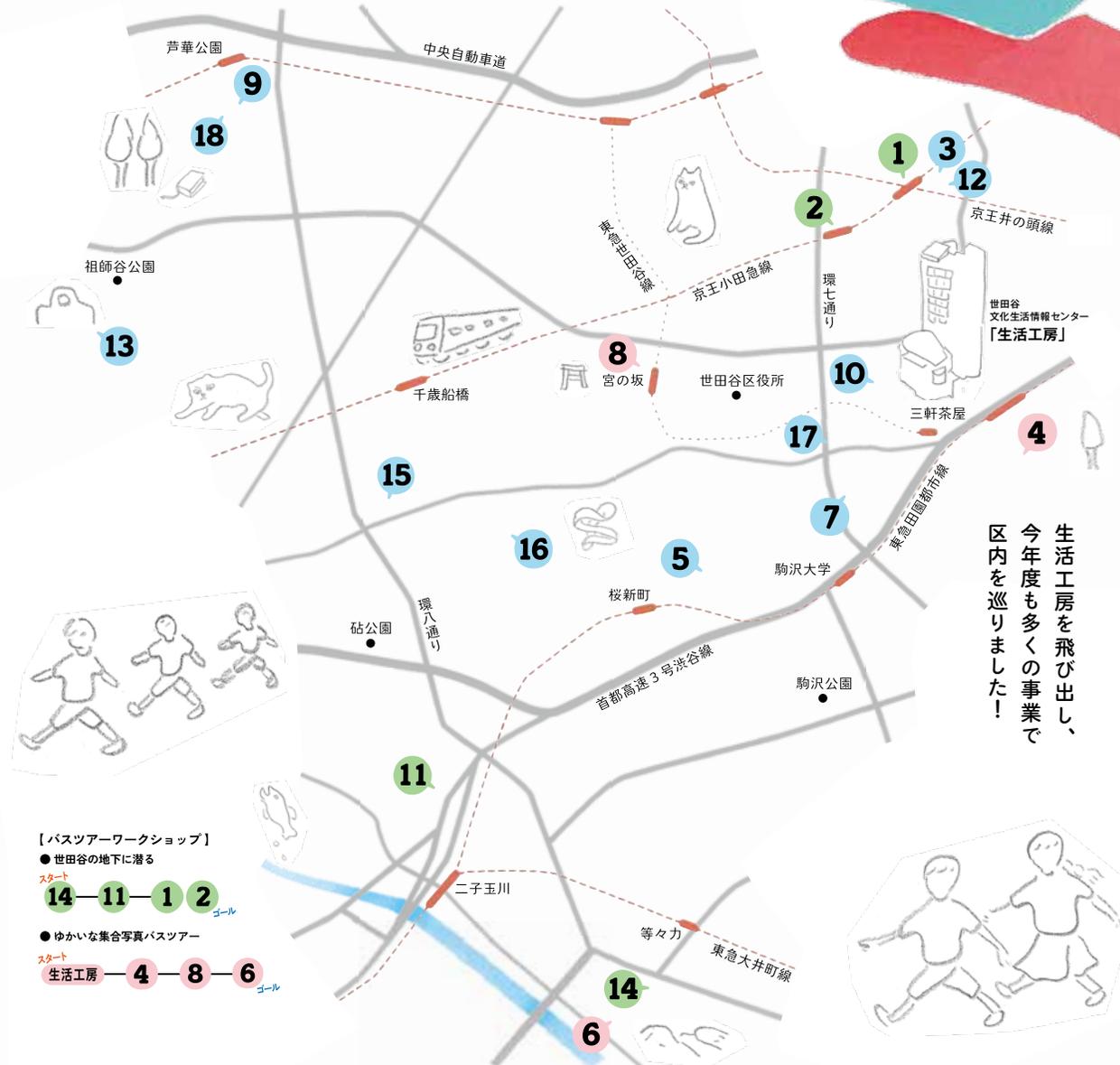


[来場者年代別]



[来場者の住まい]

つくる、学ぶ、撮って、獲る
おでかけマップ in 世田谷



生活工房を飛び出し、
今年度も多くの事業で
区内を巡りました!

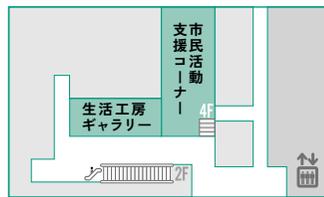
【バスツアーワークショップ】

- 世田谷の地下に潜る
スタート 14-11-1 2
- ゆかいな集合写真バスツアー
スタート 生活工房 4-8-6

場所名(掲載ページ) 住所

- 1 小田急電鉄下北沢駅 (P60) 北沢 2-24-2
- 2 小田急電鉄世田谷代田駅 (P60) 代田 2-31-12
- 3 北沢 タウンホール (P58) 北沢 2-8-18
- 4 こどものひろば公園 (P60) 下馬 2-31-4
- 5 駒沢給水塔 (P57) 弦巻 2-41
- 6 善養寺・多摩川の河原 (P60) 野毛 2-7-11
- 7 世田谷区立三軒茶屋小学校 (P43) 三軒茶屋 2-42-1
- 8 世田谷八幡宮 (P60) 宮坂 1-26-3
- 9 世田谷文学館 (P62) 南烏山 1-10-10
- 10 太子堂八幡神社 (P55) 太子堂 5-23-5
- 11 玉川大師玉眞院 (P60) 瀬田 4-13-3
- 12 ディスクユニオン下北沢 (P39) 北沢 1-40-7
- 13 東京都立総合工科高等学校 (P48) 世田谷区成城 9-25-1
- 14 等々力溪谷 (P60) 等々力 1
- 15 中杉農園 (P49) 桜ヶ丘 4-14
- 16 馬事公苑 (P57) 上用賀 2-1-1
- 17 ベスタクス (P51) 若林 1-18-6
- 18 芦花翠風邸 (P43) 南烏山 1-10-17

3F



市民活動支援コーナー



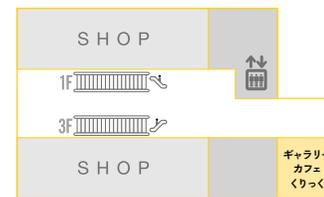
世田谷で活動している市民活動団体のためのコーナーです。打ち合わせや作業のスペース、チラシや資料を作成するためのプリンタや印刷機などを備えています。⇒P63 もご覧ください。

生活工房ギャラリー



生活工房が主催する企画展示を約1ヶ月の単位で入れ替えながらおこなっています。貸出はしていません。開館時間は午前9時～午後8時。

2F



ギャラリーカフェくりっく壁面

〔貸出対象スペース〕

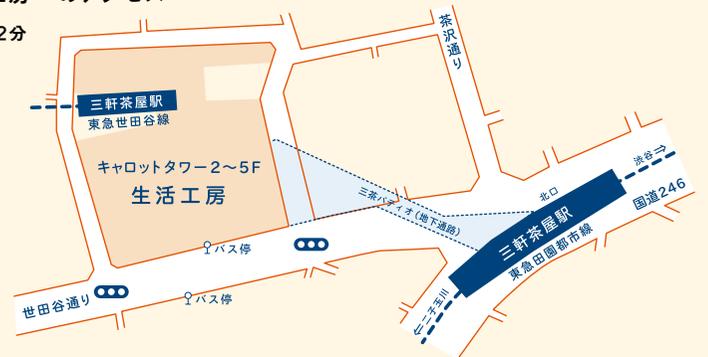


1日200人以上の人々が利用するカフェくりっくでは、場所の雰囲気を演出するため、一般公募の艺术作品を壁面に展示しています。写真、イラスト、版画、絵画、押し花など約1ヶ月ごとに入れ替えます。⇒P64 もご覧ください。

世田谷文化生活情報センター 生活工房へのアクセス

東急田園都市線「三軒茶屋」下車地下道直結徒歩2分
東急世田谷線「三軒茶屋」下車直結
小田急バス、東急バス「三軒茶屋」下車徒歩1分

開館時間…午前9時～午後10時
休館日・管理休館日…年末年始・月曜日
(貸出施設のみ。祝祭日と重なる日は除く)
所在地…〒154-0004 東京都世田谷区
太子堂4-1-1 キャロットタワー
TEL…03-5432-1543 (代表)
FAX…03-5432-1559
URL…<http://www.setagaya-ldc.net>
E-MAIL…info@setagaya-ldc.net
TWITTER…@setagaya_ldc

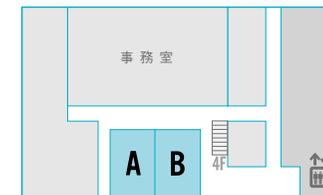


生活工房は、地域の人々の発表・活動の場でもあります。

生活工房では多彩な設備を備えたスペースで独自の企画を行うほか、一般の団体等に部屋を貸し出しています。
スペースごとに登録条件・利用方法などが異なりますので、詳細はお問い合わせ下さい。

生活工房 施設ガイド

5F



講習会や会議のためのお部屋です。プロジェクターを含む映像・音響設備も備えており、効果的なデジタルプレゼンテーションが可能です。可動式間仕切りを開くと120名まで収容できます。

セミナールーム A

74㎡/定員48名〔貸出対象スペース〕

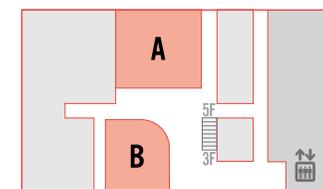


セミナールーム B

83㎡/定員48名〔貸出対象スペース〕



4F



ワークショップルーム A

126㎡/定員50名〔貸出対象スペース〕



日常生活に関わる様々な「ものづくり」を目的としたスペースです。併設されているコミュニティキッチン(63㎡)には、キッチンシンク3ヶ所のほかガスコンロ3ヶ所、厨房用品を備えており、交流会にも使用できます。

ワークショップルーム B

145㎡/定員50名〔貸出対象スペース〕



扇形の壁面が特徴的な展示向けのスペースです。可動展示パネルを動かすことで、室内のレイアウトが変更でき、多様な展示が行えます。音響や映像機器を使った集会等の開催も可能です。

ご支援・ご協力いただいた企業、団体、教育・公共機関等

2011年度、生活工房の活動にご支援・ご協力を頂きました皆様へ、この場を借りて深く感謝申し上げます。

●各50音順●

【共催】

(財)NHK放送研修センター日本語センター／NPO法人国際ボランティア学生協会／SUNUS／世田谷アートフリマプロジェクト／NPO法人世田谷NPO法人協議会／世田谷おはなしネットワーク／世田谷海外研修者の会／(福)世田谷区社会福祉協議会／世田谷区生活文化都市民活動推進課／世田谷地域福祉部生涯現役推進課／(財)世田谷トラストまちづくり／(福)世田谷ボランティア協会／ソニーマーケティング(株)／デイズジャパン／東京都立総合工科高等学校

【協賛】

NPO法人世田谷NPO法人協議会／ソフトバンクモバイル(株)／(株)東急コミュニケーション／トヨタ自動車(株)／HORIGUCHI COFFEE／本田技研工業(株)

【協力】

(有)アイエイチ・ファクトリー／あかね写真館／イエローポップ下北沢店／SUJHOUSE 上柳／いせフィルム／エコー仲見世商店街／(株)LD&S／大泉写真スタジオ／大塚製菓(株)／小田急電鉄(株)／お茶の水・おりがみ会館／オムロンヘルスケア(株)／(株)カーワックス・FACEWORKBALL／菊地写真館／(有)菊屋／(株)金羊社／(株)京阪神エルマガジン社／国立民族学博物館／COOPA、パナマの野生園を守る活動／／コド・モノ・コト／(有)小林写真館／駒沢給水塔風景資産保存会／サナスタジオ／三工機器(株)／三洋電機(株)／SUNROOM／次世代自動車振興センター／シティ・カントリー・シティ／(有)島田フォトスタジオ／NPO法人睡眠文化研究会／優れたドキュメンタリー映画を観る会／セセン設計所／世田谷233／世田谷区立三軒茶屋小学校／世田谷区立児童館／世田谷区立中央図書館／(株)世田谷社／世田谷消防署／(株)織研新聞社／全日本空輸(株)／善養寺／太子堂八幡神社／dublabb／TSUJAYA 三軒茶屋店／disques corde／ディスクユニオン下北沢店／dellabb／東京シネマ新社／(協)東京都写真協会世田谷支部／(株)東芝／東洋化成(株)／中杉農園／日産自動車

(株)／日清食品ホールディングス(株)／日清紡テキスタイル(株)／日本EVクラブ／(独)日本学生支援機構／NPO日本カリブ海交流協会／(財)日本国際教育支援協会／日本ミシュランタイヤ(株)／日本民藝館／パイオニア(株)／白十字(株)／(有)橋本写真館／hannock2000／広瀬スタジオ／(有)フォトスタジオおしもと／BOCKS／フラッシュ・ステイスク・ランチ／Breakout para / ベスタクス(株)／(株)ベネッセスタイルケア 芦花翠風邸／北海道立北方民族博物館／(株)三度／三菱自動車(株)／民族文化映像研究所／無印良品くらしの良品研究所／(株)メディア・ワン／ゆかい／輸入雑貨アスレ／横浜コム(株)／(有)吉浦写真館／LAWO／(株)L'optique／ロフテ(株)

【後援】

在日カナダ大使館／(社)日本インダストリアルデザイナー協会／パナマ共和国大使館

※本冊子に記載されている個人及び団体、施設の名称は事業開催当時の情報に基づいています。



※『難あり男子』とは…一緒にいる人を、まるで災難のごとき事件に巻きこむ男性のこと。マンガ『難あり男子』は集英社より発売中。

生活工房アニユアルレポート 2011

発行日 2012年3月31日

デザイン ALL RIGHT GRAPHICS

写真 平野太呂、阿部健

イラスト 森本将平

印刷 株式会社アイワード

協賛 株式会社東急コミュニケーション

編集・発行 公益財団法人せたがや文化財団

生活工房

〒154-0004

東京都世田谷区太子堂4-1-1

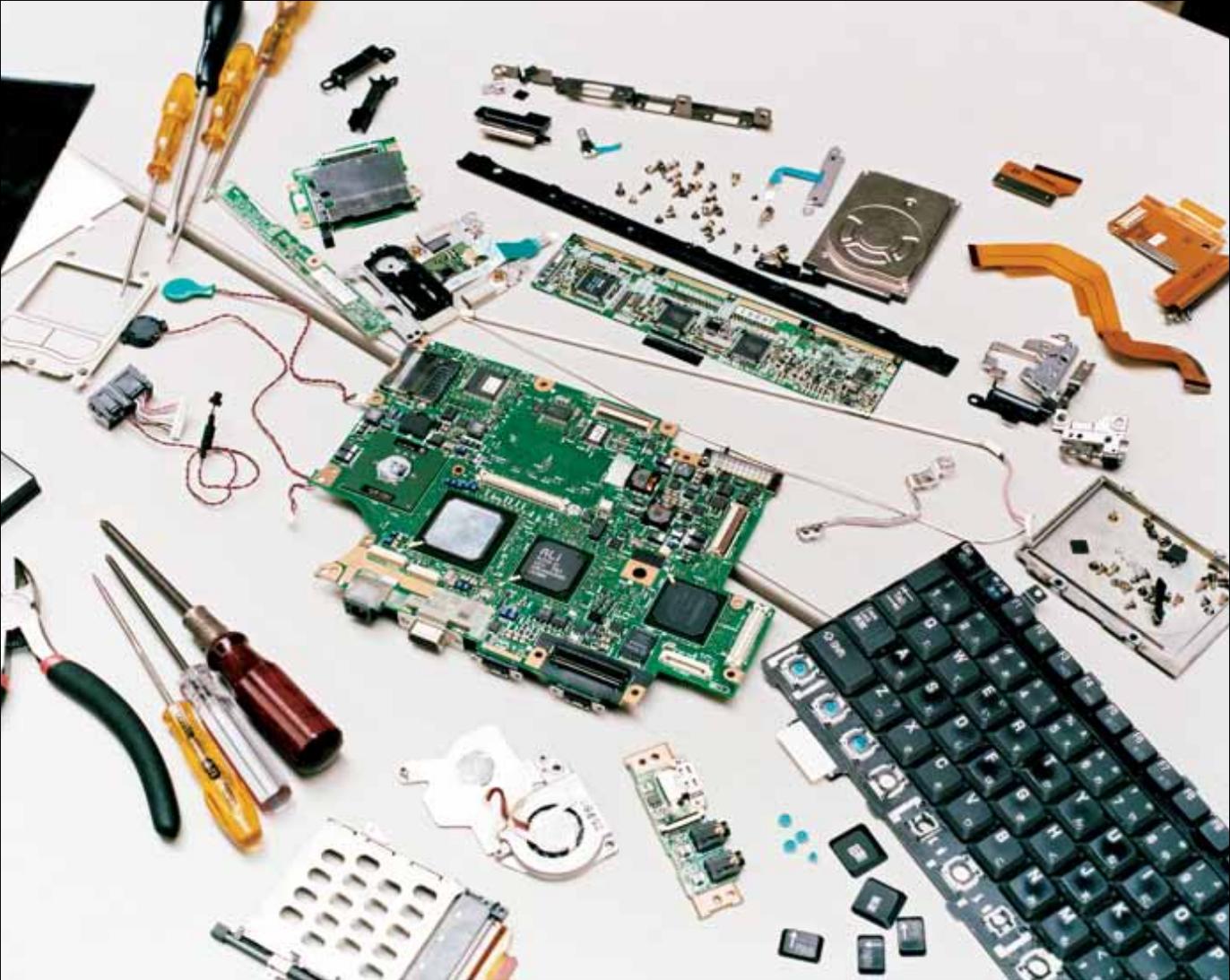
電話 03-5443-1154

FAX 03-5443-1159

http://www.setagaya-1dc.net

本書の無断転写、複製、転載を禁じます。

©Setagaya Arts Foundation Lifestyle Design Center 2012
Printed in Japan



写真＝平野太呂

生活工房2012年度 4・5・6月スケジュール

4月7日(土)～5月20日(日)
日本の伝統文化と歳時記 VOL.3
和の色彩と紋様にみる「江戸の粋」
重ね色・合せ色・挿し色

「春の色」をテーマに、江戸時代を中心に
庶民の間で伝承されてきた色彩文化を紹介します。
会場Ⅱ 3F生活工房ギャラリー 9時～20時 入場無料

5月25日(金)～6月17日(日)
異郷 西江雅之写真展

世界中を旅し、様々な民族や文化に触れてきた
“ハダシの学者”西江雅之氏の初となる
大規模写真展です。

会場Ⅱ 3F生活工房ギャラリー、ワークショップルームB
11時～19時 入場無料

6月24日(日)～7月22日(日)
7つの海と手しごとへ第3の海へ
地中海とトルコのイーネオヤ

イスラムの女性が母から娘へと伝え続けてきた
スカーフの縁飾り「イーネオヤ」を地域ごとに紹介します。
会場Ⅱ 3F生活工房ギャラリー 9時～20時 入場無料

公益財団法人
せたがや文化財団

生活工房

〒154-0004
東京都世田谷区太子堂4-1-1
キャロットタワー
TEL 03-5432-1543 (代表)
URL <http://www.setagaya-ldc.net>

